

第1章 福崎町の概況

1. 福崎町の特徴

(1) 位置・地勢

本町は、兵庫県の中央部からやや南寄り(北緯34°57′、東経134°46′)に位置し、周辺を緑の山々で囲まれた盆地形状の町域となっています。町域は、東西10.1km、南北11.5km、総面積45.79km²であり、北は市川町、南と西は姫路市、東は加西市と接しています。

中央部には清流“市川”が流れており、流域に農地と市街地が広がっています。また、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が町の中央部のやや南側で交差する「福崎インターチェンジ」(以降、福崎IC)をもつ広域的な交通の要衝地であり、また播磨地域の中核都市である姫路市の中心部から約17kmの距離にある利便性の高い立地条件を有しています。

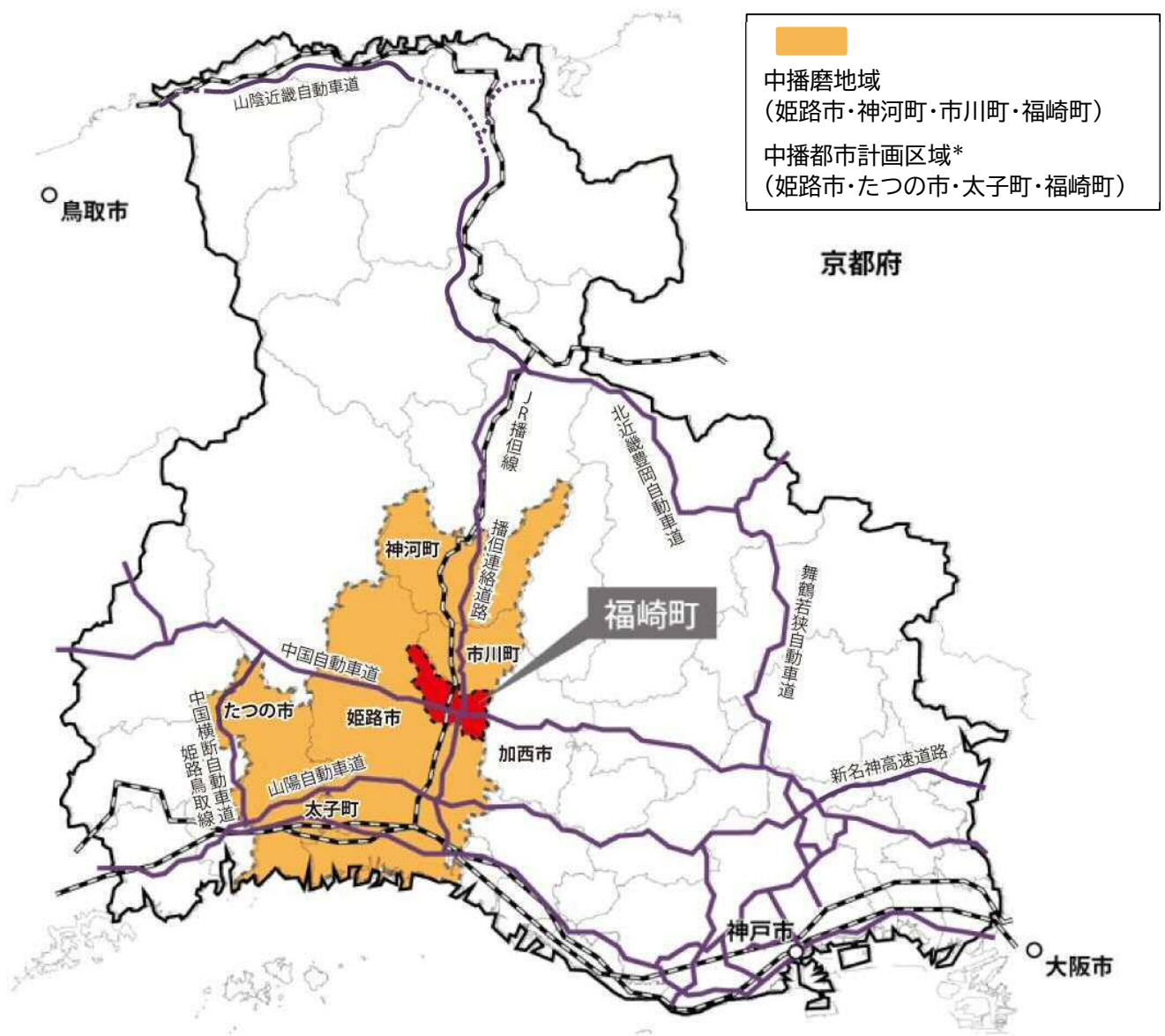


図 1.1 福崎町の位置

(2) 沿革

本町に人が住み始めたのは、今から数万年前の旧石器時代であり、当時の石器が発見されています。縄文時代や弥生時代には町内各地で人々の生活が営まれ、古墳時代後期になると、多くの古墳が段丘上や山すそに築かれました。

奈良時代の本町は播磨国に属し、『播磨国風土記』には、はりまのくに ふ ど き 神前(崎)郡かむさきの こほりの里として「高岡里」(旧福崎町)「多駝里」(田原村、八千種村)「川辺里」(田原村の一部)が記載されており、高岡里では奈具佐山たかおかのと (七種山)や郡名の由来となった神前山、多駝里では八千軍野(八千種)の記述が見られます。

平安時代末から鎌倉時代は、かむさきやま 田原荘、ただのさと 高岡荘、やちくさの 陰山荘の3つの荘園が成立しました。江戸時代には、姫路藩領に属していました。さらに、明治22年には町村制の施行で田原村、八千種村、福崎村が発足し、大正14年には、福崎村が神崎郡で初めて町制を施行し、旧福崎町となりました。

このような移り変わりのなか、昭和31年5月3日に、古くから風習、習慣を同じくし、地勢、交通などにおいても密接な関係にあった田原村、八千種村、旧福崎町の1町2村が合併し、現在の福崎町となりました。

以降、播但連絡道路や中国縦貫自動車道の開通後は、交通の要衝として福崎工業団地などの民間開発が進み、内陸型工業都市としての性格を強めました。その後も、工業団地の拡張等が進み、平成9年には福崎町東部工業団地が完成しました。町内への企業進出が進む中で、福崎ICの交通需要の高まりから、アクセス機能強化のために県道三木穴栗線及び町道中島井ノ口線の整備を進めてきました。また、令和元年に完了した福崎駅周辺整備事業は、本町の交通拠点としての機能を大幅に向上させました。

(3) 地形

町域の西及び北西側には播但山地南縁の西播山地の属する標高400～650mの山地群、東側には加西丘陵、台地に属する標高200～400mの小山地群があり、それらの中央部分を市川がほぼ南北に貫流して、その両側に市川による河岸段丘と沖積低地が広がっています。

山地は南部を除いて町域を囲むように分布しており、市川の右岸を流れる七種川、西谷川と、左岸の谷川、雲津川、平田川などによって開析が進んでいます。また、左岸は広範囲に台地・段丘が分布しており特徴的な地形になっています。

低地は町域南部の市川沿いの氾濫原として、また前述の山地を刻む市川の支流沿いの狭小な谷底平野として発達しています。

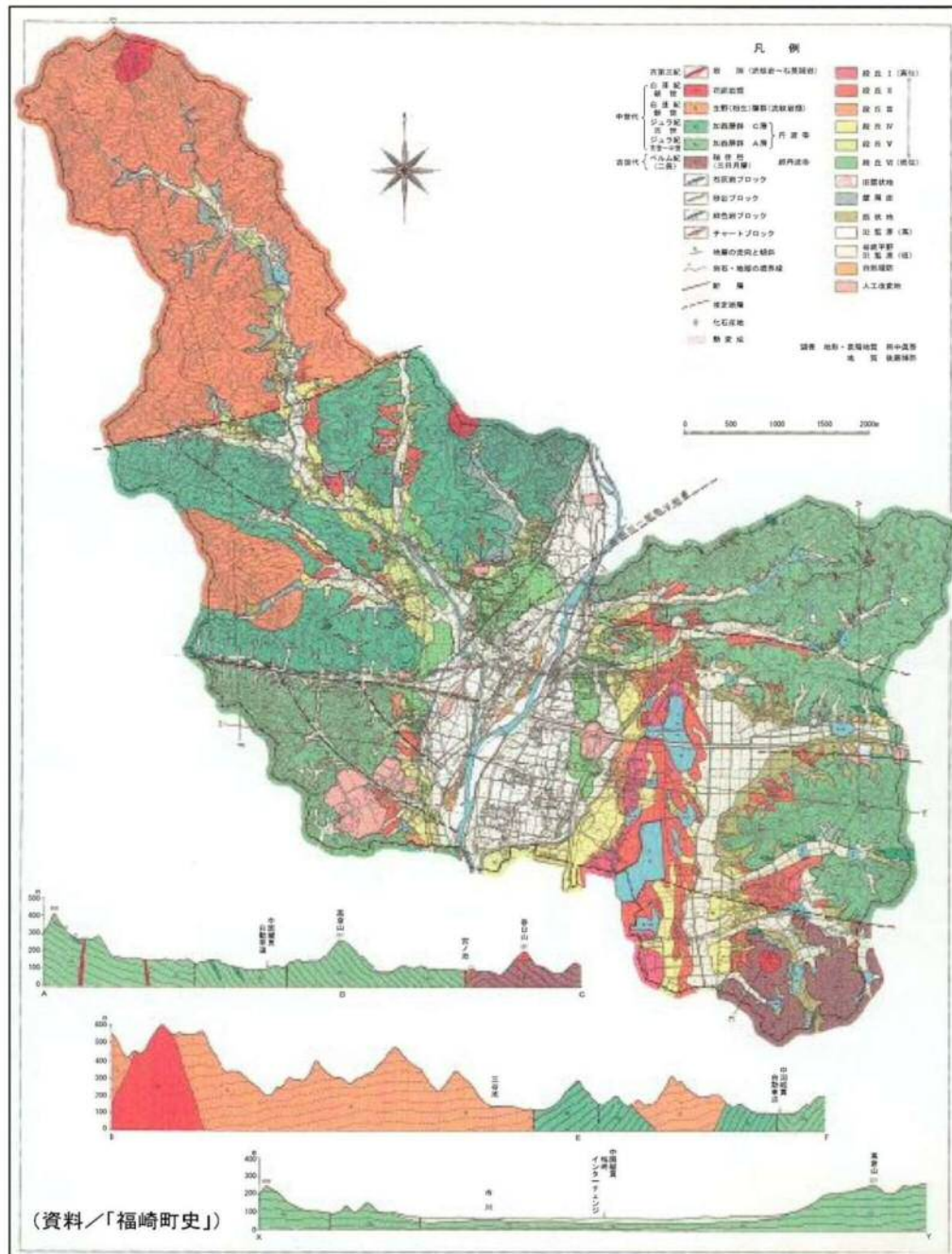


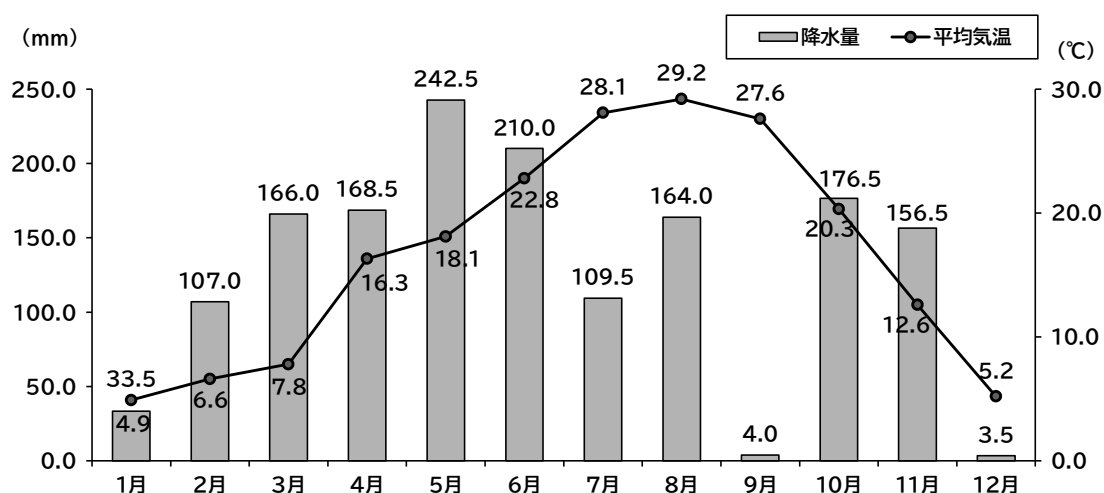
図 1.2 福崎町の地形

(4) 気候

概ね瀬戸内海型の穏やかな気候ですが、内陸型気候の影響も若干受けており、寒暖差が比較的大きい気象となっています。

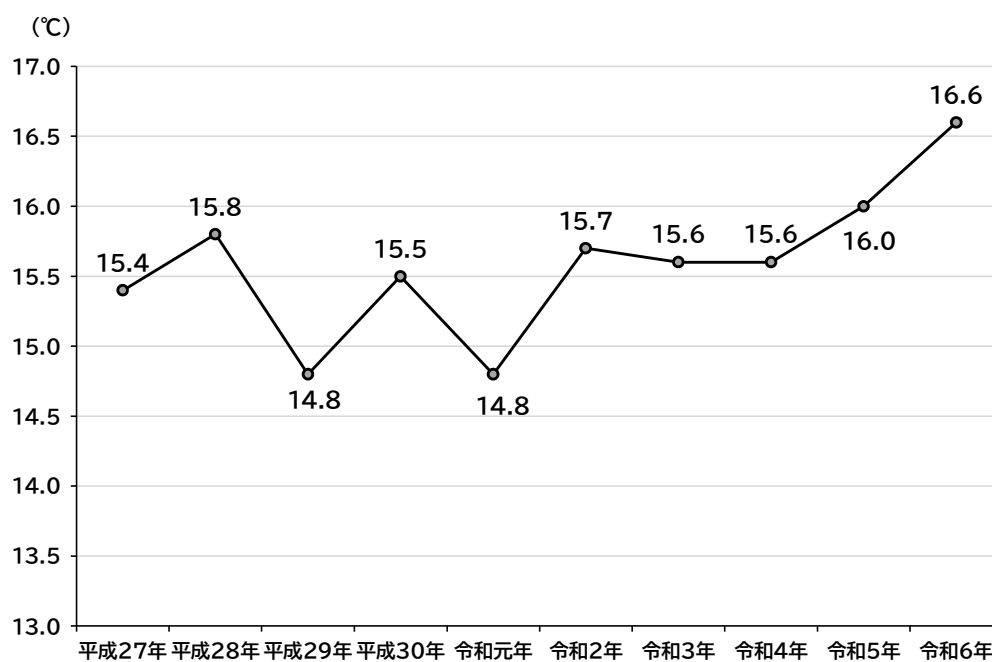
風向・風速については、夏の南西風、冬の北西風という日本の季節風の影響が色濃く見られます。

また近年、地球温暖化の影響で年平均気温の上昇が見られます。局地的なゲリラ豪雨も度々発生し、床下浸水などの被害が発生しています。



資料:気象庁

図 1.3 月別降水量と平均気温(令和6年)



資料:気象庁

図 1.4 年平均気温の推移

(5) 面積

町の面積は、4,579haであり、このうち3,787haが都市計画区域*の指定を受けています。都市計画区域*のうち、430haが市街化区域、3,357haが市街化調整区域*となっています。

表 1.1 区域区分*別の面積

令和 7 年 6 月1日現在

区域区分	面 積
行政区域	4,579ha (100.0%)
都市計画区域	3,787ha (82.7%)
市街化区域	430ha (9.4%)
市街化調整区域	3,357ha (73.3%)
都市計画区域外	792ha (17.3%)

資料:まちづくり課

(6) 自然環境

① 森林

町面積4,579haのうち、森林面積は約54%にあたる 2,459haを占めており、保安林指定区域は、土砂流出防備保安林*、水源かん養保安林など595haとなっています。また、町内の災害危険箇所として土砂災害(特別)警戒区域(土砂流)、土砂災害(特別)警戒区域(急傾斜地の崩壊)、山腹崩壊危険地区*及び崩壊土砂流出危険地区*等が指定されています。(資料／町面積・森林面積:福崎町森林整備計画)

② 河川

本町の主要河川として町中央部を南北に流れる県管理の二級河川*市川があり、その支川として七種川、平田川、雲津川、西谷川(いずれも二級河川*)及び30本の町が管理する普通河川が流れています。また、町内を流れる中小河川は、灌漑用水を兼用しています。

表 1.2 県管理河川

令和 7 年 6 月1日現在 (単位:m)

区分	河川名	延長	改良	暫定改良
二級河川	市 川	4,250 右 5,000 左 3,500		
	七種川	5,924	1,024	
	平田川	2,800		1,386
	雲津川	3,200	1,110	1,400
	西谷川	2,500		2,500

資料:まちづくり課

表 1.3 町管理河川(普通河川)

令和 7 年 6 月1日現在(単位:m)

区分	河川名	延長	改良	暫定改良	区分	河川名	延長	改良	暫定改良
普通 河川	大谷川	850		850	普通 河川	矢口川	495		480
	前川	1,410		1,410		西治川	506	370	136
	北川	1,890	74	1,530		ヤゴ川	508	360	
	大貫川	630		630		南田原川	1,100	1,100	
	平田川	1,420	1,420			新池川	270		270
	大門川	630		630		下河原川	230	230	
	雲津川	940		940		戸崎川	540	540	
	谷川	2,090		850		西山川	230	230	
	川すそ川	540				坂の下川	740	740	
	高橋川	1,540	1,540			福田川	700	547	153
	西谷川	1,170	260	23		三谷川	1,320	1,121	
	振古川	900	900			イマ谷川	551	551	
	直谷川	1,754	446	208		七種川	3,050	460	
	塩田川	1,420	1,370			小滝川	2,120		
	大内川	2,600	880			板坂川	465		465

資料:まちづくり課

③ ため池

町内には約200か所のため池があり、そのうち受益面積が0.5ha以上の特定ため池(防災重点農
業用ため池)は63か所にのぼります。

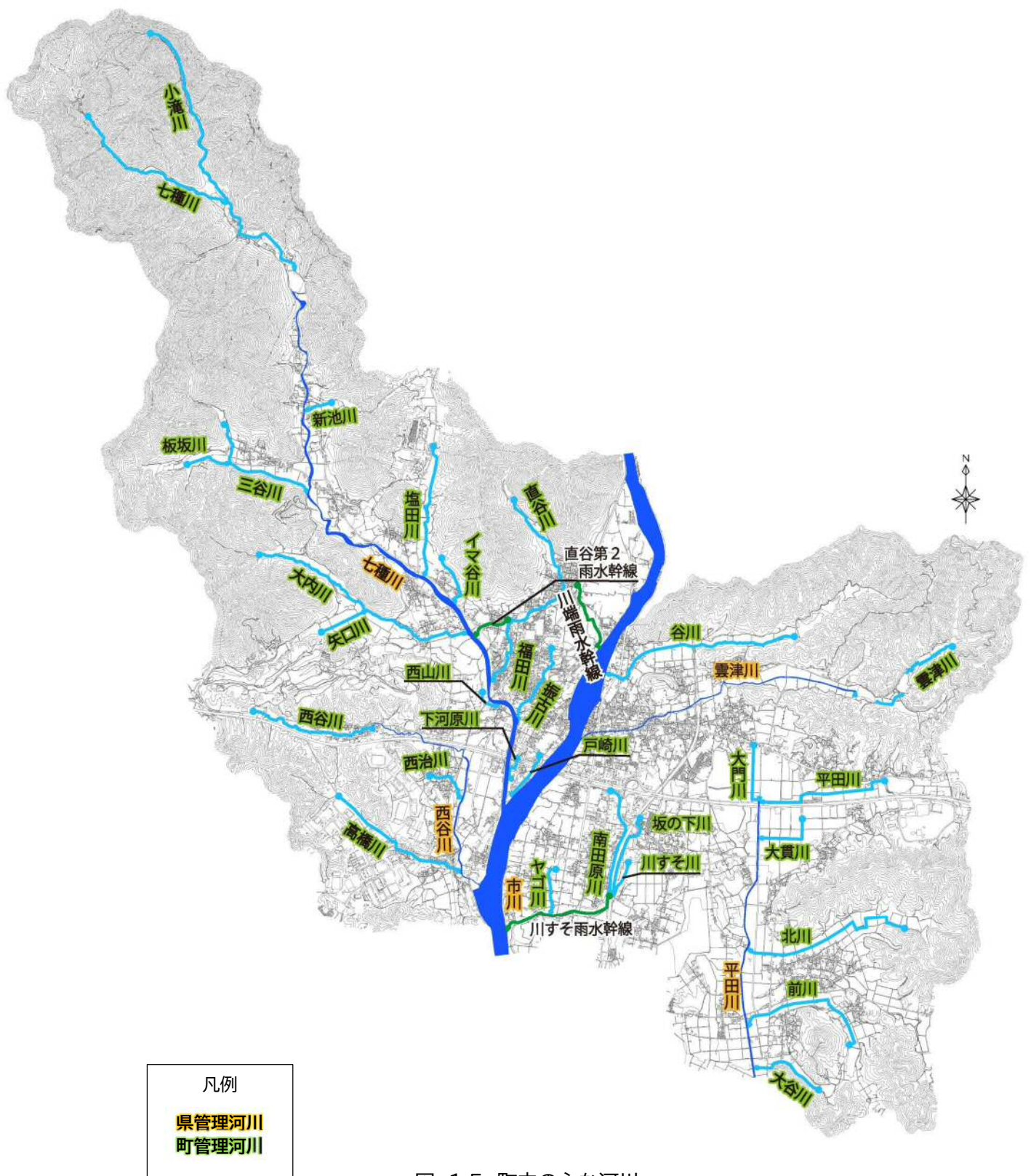


図 1.5 町内の主な河川

2. 福崎町の現況

2-1. 人口・世帯数等の推移

(1) 人口・世帯数

本町の総人口は 19,377 人(令和2年国勢調査*)です。平成初頭に1万9千人に達した後、町内にある大学の学生数の増減による影響で若干の変動はあるものの、概ね2万人の人口を維持していました。しかしながら、市街化区域においては人口定着がみられるものの、市街化調整区域*における減少が大きく、人口は平成17年をピークに年々減少しています。

一方、世帯数は昭和55年以降一貫して増加しており、令和2年国勢調査*では、世帯数は7,795世帯となっています。

平成17年以降は、人口が減少し世帯数が増加しているため、世帯あたりの平均人数の低下が続き、核家族化や高齢世帯の増加が進んでいる傾向が見られます。

表 1.4 行政区域人口の推移

(単位:人)

区域	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
行政区域人口	20,669	19,830	19,738	19,377
都市計画区域人口	19,359	19,205	19,106	18,678
市街化区域人口	10,081	10,139	10,393	10,509
市街化調整区域人口	9,278	9,066	8,713	8,169
都市計画区域外人口	1,310	625	632	699

資料:国勢調査

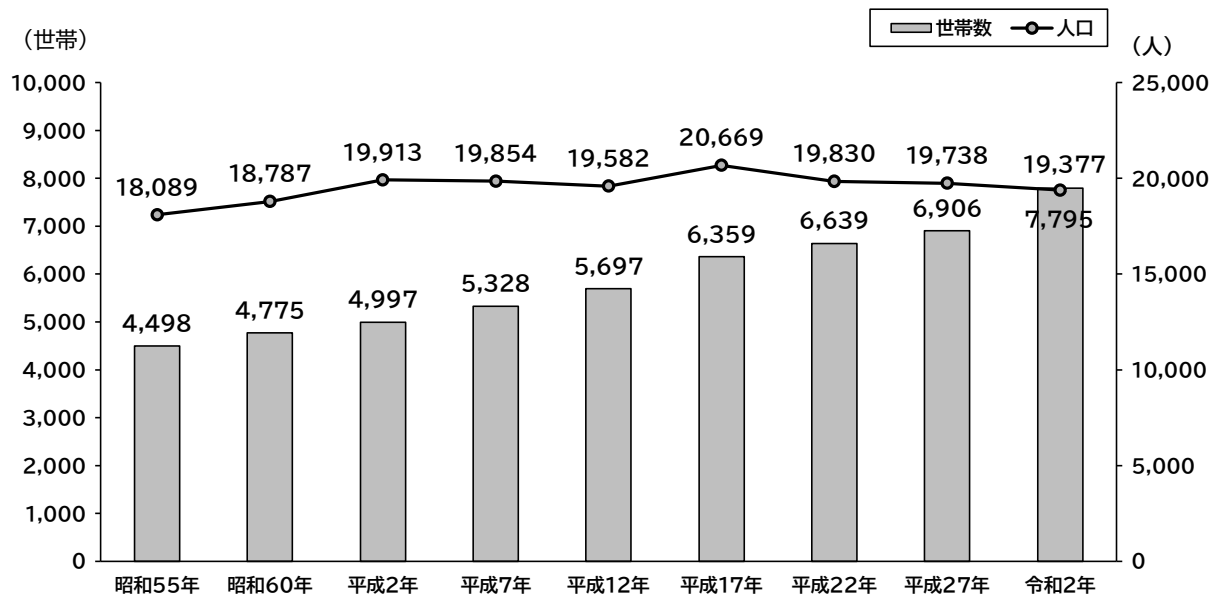
表 1.5 人口・世帯の推移

(単位:人)

区域	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
総人口	20,669 (100.0%)	19,830 (100.0%)	19,738 (100.0%)	19,377 (100.0%)
15 歳未満	2,865 (13.9%)	2,724 (13.7%)	2,698 (13.7%)	2,442 (12.6%)
15～64 歳	13,594 (65.7%)	12,336 (62.5%)	11,603 (59.0%)	10,516 (54.3%)
65 歳以上	4,210 (20.4%)	4,689 (23.7%)	5,360 (27.3%)	5,454 (28.1%)
世帯数	6,359	6,639	6,906	7,795
1 世帯あたりの人員	3.25	2.99	2.86	2.49

注)総数には「不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない

資料:国勢調査



資料:国勢調査

図 1.6 人口及び世帯数の推移

(2) 年齢階層別人口

国勢調査*における年齢階層別人口をみると、令和2年の0～14歳の幼年人口は2,442人(12.6%)、15～64歳の生産年齢人口は10,516人(54.3%)、65歳以上の老年人口は5,454人(28.1%)となっており、少子高齢化が確実に進展しています。

また、平成28年以降の年齢階層別人口の動向を住民基本台帳*の数値でみると、高齢化は更に進んでおり、令和6年の65歳以上の老年人口比率は29.5%に達しています。さらに75歳以上の後期高齢者が16.8%を占めており、老年人口の半数以上が75歳以上となっています。

表 1.6 年齢区分別人口の推移(国勢調査*)

(単位:人)

	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上	うち、75歳以上
昭和40年	4,257(26.1%)	6,498(39.8%)	4,133(25.3%)	1,434 (8.8%)	515 (3.2%)
昭和45年	3,888(23.4%)	6,535(39.3%)	4,575(27.5%)	1,639 (9.8%)	590 (3.5%)
昭和50年	4,134(23.5%)	6,578(37.4%)	5,022(28.5%)	1,869(10.6%)	669 (3.8%)
昭和55年	4,197(23.2%)	6,409(35.4%)	5,292(29.3%)	2,191(12.1%)	813 (4.5%)
昭和60年	4,241(22.6%)	6,195(33.0%)	5,764(30.7%)	2,587(13.7%)	1,018 (5.4%)
平成2年	3,666(18.4%)	6,771(34.0%)	6,456(32.4%)	3,020(15.2%)	1,341 (6.7%)
平成7年	3,287(16.6%)	6,439(32.4%)	6,651(33.5%)	3,477(17.5%)	1,553 (7.8%)
平成12年	3,041(15.5%)	6,109(31.2%)	6,597(33.7%)	3,835(19.6%)	1,780 (9.1%)
平成17年	2,865(13.9%)	7,017(33.9%)	6,577(31.8%)	4,210(20.4%)	2,174(10.5%)
平成22年	2,724(13.7%)	6,015(30.3%)	6,321(31.9%)	4,689(23.7%)	2,395(12.1%)
平成27年	2,698(13.7%)	5,491(27.9%)	6,112(31.1%)	5,360(27.3%)	2,552(13.0%)
令和2年	2,442(12.6%)	4,632(23.9%)	5,884(30.4%)	5,454(28.1%)	2,747(14.2%)

資料:国勢調査
※年齢不詳者は除く

表 1.7 年齢区分別人口の推移(住民基本台帳*)

各年3月31日現在 (単位:人)

	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上	うち、75歳以上
平成28年	2,755(14.1%)	5,485(28.0%)	6,040(30.9%)	5,271(27.0%)	2,486(12.7%)
平成29年	2,709(13.9%)	5,485(28.1%)	6,004(30.7%)	5,346(27.3%)	2,569(13.1%)
平成30年	2,681(13.9%)	5,305(27.4%)	5,979(30.9%)	5,367(27.8%)	2,620(13.6%)
平成31年	2,632(13.7%)	5,257(27.3%)	5,946(30.9%)	5,426(28.1%)	2,683(13.9%)
令和2年	2,565(13.4%)	5,136(26.9%)	5,964(31.2%)	5,436(28.5%)	2,729(14.3%)
令和3年	2,538(13.4%)	4,959(26.2%)	5,979(31.6%)	5,469(28.9%)	2,755(14.5%)
令和4年	2,495(13.3%)	4,781(25.5%)	5,992(31.9%)	5,494(29.3%)	2,858(15.2%)
令和5年	2,417(12.9%)	4,847(25.9%)	5,996(32.0%)	5,472(29.2%)	2,982(15.9%)
令和6年	2,367(12.7%)	4,823(25.8%)	5,985(32.0%)	5,513(29.5%)	3,135(16.8%)

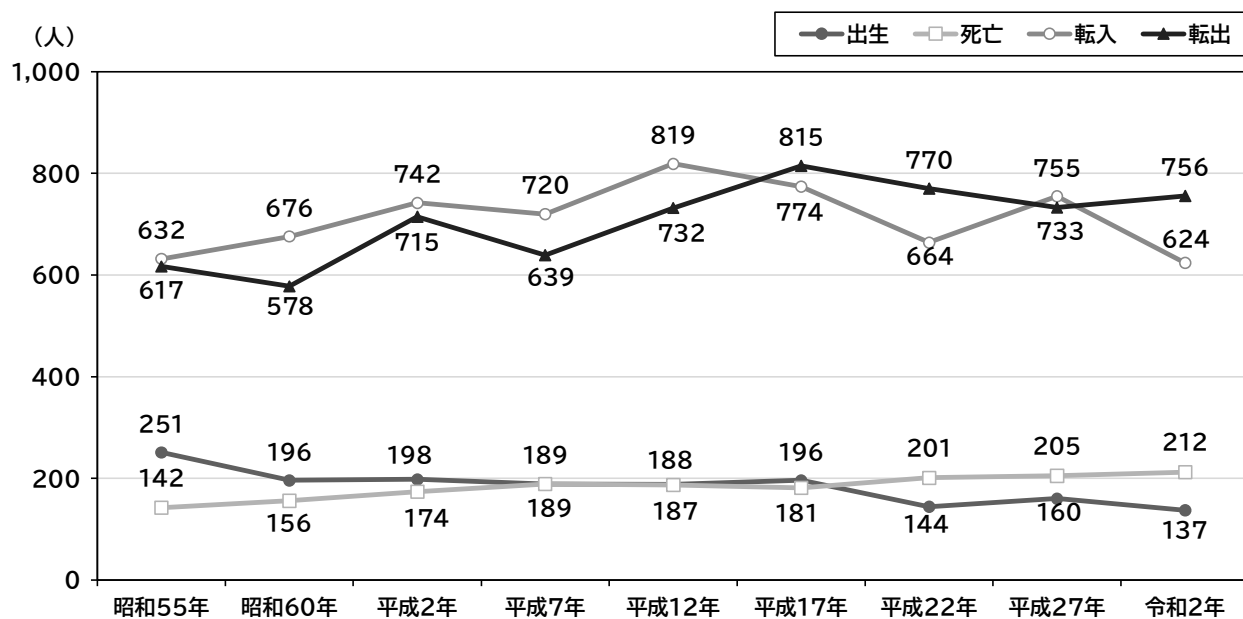
資料:住民基本台帳

(3) 人口動態

本町の人口動態を転入・転出の動きからみると、平成12年頃までは転入者数が転出者数を上回り、町として一定の社会増が続いていました。しかし、その後は状況が変化し、転出が転入を上回る年が多くなっています。これは、進学や就職に伴う若年層の町外流出が影響していると考えられます。

また、自然動態である出生数と死亡数の推移をみると、平成2年頃までは出生数が死亡数を上回り、自然増の状態にありました。しかし、その後は出生数の減少と高齢化の進行により、両者はほぼ同程度となり、平成22年以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状況へと転じています。

以上のことから、本町の人口は社会動態・自然動態の両面から減少傾向が強まっていることがうかがえます。



資料：住民生活課・市町別主要統計指標

図 1.7 人口動態の推移

2-2. 人口流動

通勤者については、流入が昭和60年以降一貫して増加傾向にあるのに対し、流出は平成22年をピークに若干減少傾向にあります。通学者については、流出が概ね横ばいであるのに対し、流入は平成2年をピークに減少傾向にあります。

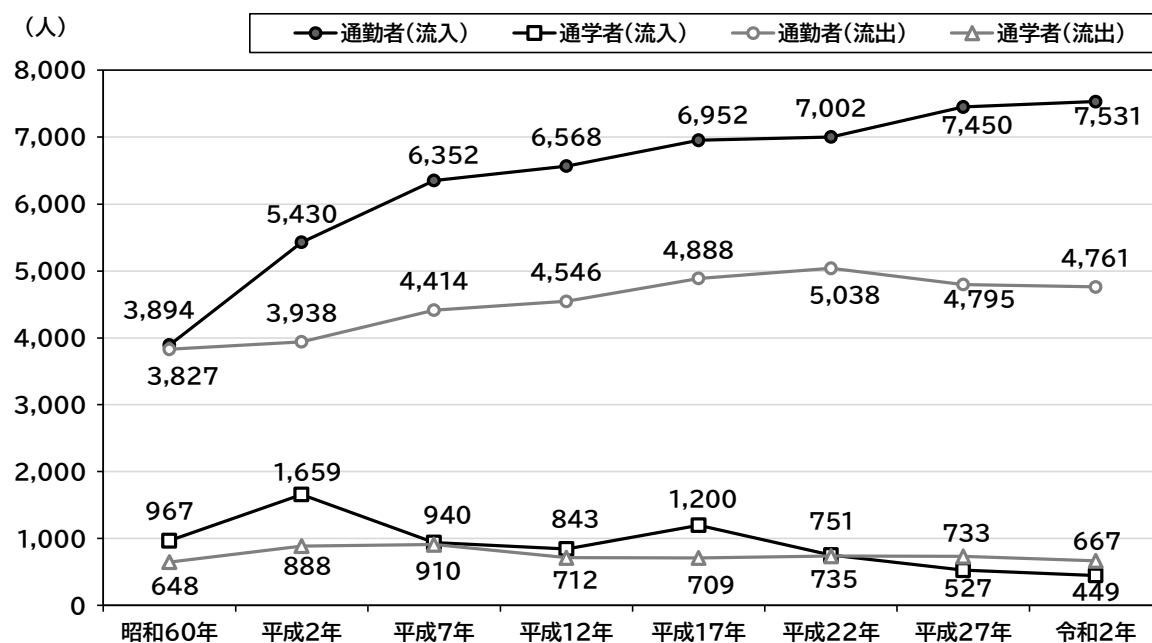
令和2年国勢調査*による本町の昼間人口は21,929人で、夜間人口19,377人と比べた昼夜間人口率は113.2%と県内トップとなっています。

表 1.8 人口流動の推移

(単位:人)

	昭和 60年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 22年	平成 27年	令和 2年
夜間人口	18,787	19,913	19,854	19,582	20,669	19,830	19,738	19,377
流入	通勤者	3,894	5,430	6,352	6,568	6,952	7,002	7,531
	通学者	967	1,659	940	843	1,200	751	449
	計	4,861	7,089	7,292	7,411	8,152	7,753	7,980
流出	通勤者	3,827	3,938	4,414	4,546	4,888	5,038	4,761
	通学者	648	888	910	712	709	735	667
	計	4,475	4,826	5,324	5,258	5,597	5,773	5,428
流入－流出	386	2,263	1,968	2,153	2,555	1,980	2,449	2,552
昼間人口	19,173	22,176	21,822	21,741	23,224	22,069	22,187	21,929
昼夜間人口率 (%)	102.1	111.4	109.9	111.0	112.4	111.3	112.4	113.2

資料:国勢調査



資料:国勢調査

図 1.8 人口流動の推移

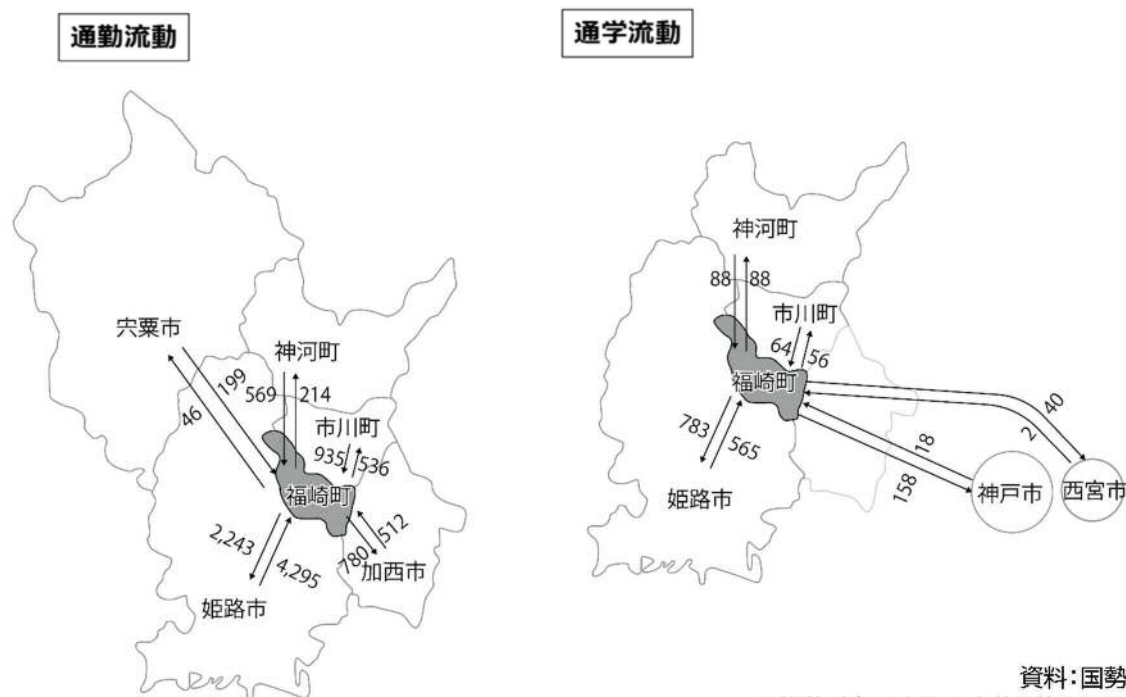


図 1.9 通勤・通学流動(令和2年国勢調査)

表 1.9 兵庫県内市町別昼夜間人口比率のランキング(令和2年国勢調査*)

順位	市区町村名	昼間人口率	夜間人口	昼間人口	順位	市区町村名	昼間人口率	夜間人口	昼間人口
1	福崎町	113.2%	19,377	21,929	22	尼崎市	96.6%	459,593	443,929
2	加東市	108.6%	40,645	44,147	23	西脇市	96.6%	38,673	37,350
3	加西市	107.5%	42,700	45,882	24	三田市	95.8%	109,238	104,676
4	洲本市	103.1%	41,236	42,506	25	新温泉町	95.7%	13,318	12,746
5	神戸市	102.3%	1,525,152	1,560,753	26	丹波篠山市	95.4%	39,611	37,781
6	小野市	101.6%	47,562	48,324	27	香美町	95.0%	16,064	15,261
7	豊岡市	101.3%	77,489	78,477	28	穴粟市	93.9%	34,819	32,688
8	養父市	101.2%	22,129	22,403	29	伊丹市	93.2%	198,138	184,573
9	佐用町	101.0%	15,863	16,019	30	明石市	90.5%	303,601	274,720
10	三木市	100.9%	75,294	75,974	31	加古川市	90.1%	260,878	234,987
11	姫路市	100.2%	530,495	531,747	32	多可町	89.4%	19,261	17,211
12	高砂市	100.1%	87,722	87,810	33	西宮市	88.6%	485,587	430,122
13	相生市	98.9%	28,355	28,055	34	市川町	88.0%	11,231	9,882
14	淡路市	98.7%	41,967	41,427	35	播磨町	87.0%	33,604	29,234
15	稲美町	98.6%	30,268	29,858	36	神河町	86.8%	10,616	9,217
16	朝来市	98.5%	28,989	28,547	37	芦屋市	85.8%	93,922	80,555
17	上郡町	97.5%	13,879	13,528	38	太子町	81.7%	33,477	27,349
18	たつの市	97.4%	74,316	72,387	39	川西市	81.1%	152,321	123,592
19	丹波市	97.4%	61,471	59,866	40	宝塚市	81.0%	226,432	183,303
20	赤穂市	97.2%	45,892	44,586	41	猪名川町	78.8%	29,680	23,398
21	南あわじ市	97.1%	44,137	42,837	兵庫県		96.1%	5,465,002	5,249,636

資料：国勢調査

2-3. 土地利用の現状

本町は、中播磨地域の内陸部にあり、山に囲まれた町の中央部の低地を市川が流れるなど、豊かな自然を有しています。本町の面積は4,579haあり、町域の約83%が都市計画区域*に指定されています。

市街化区域は、市川右岸の福崎駅周辺から市川左岸の福崎IC周辺に広がっています。駅を中心として発展してきた福崎駅周辺は、古くから土地利用が進んだために、住工混在地が広く分布しています。市川左岸は、農地などの低未利用地*が多く残っていましたが、新しく整備された道路沿線では商業地などの土地利用が顕著になっています。

また、工業地は福崎工業団地・福崎企業団地が整備された南西部、福崎町東部工業団地が整備された東部に形成されています。

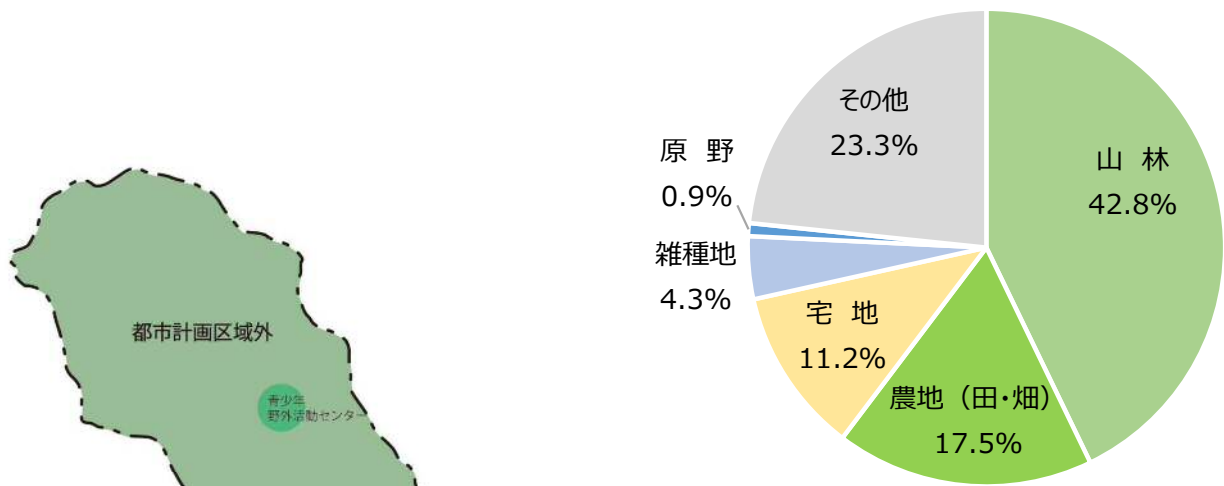
市街化調整区域*を含めた本町の土地利用状況は、宅地が約11%で、田や畑、山林などの自然的土地利用は約60%となっています。

表 1.10 用途地域*の指定状況

令和7年6月1日現在

区分	面積 (ha)	割合 (%)
都市計画区域	3,787	82.7%
市街化区域	430	9.4%
第1種低層住居専用地域	13	0.3%
第2種中高層住居専用地域	95	2.1%
第1種住居地域	58	1.3%
第2種住居地域	33	0.7%
近隣商業地域	10	0.2%
準工業地域	68	1.5%
工業専用地域	153	3.3%
市街化調整区域	3,357	73.3%
都市計画区域外	792	17.3%
総面積	4,579	100.0%

資料:まちづくり課



令和7年1月1日現在
資料:固定資産税概要調書

図 1.10 土地利用状況

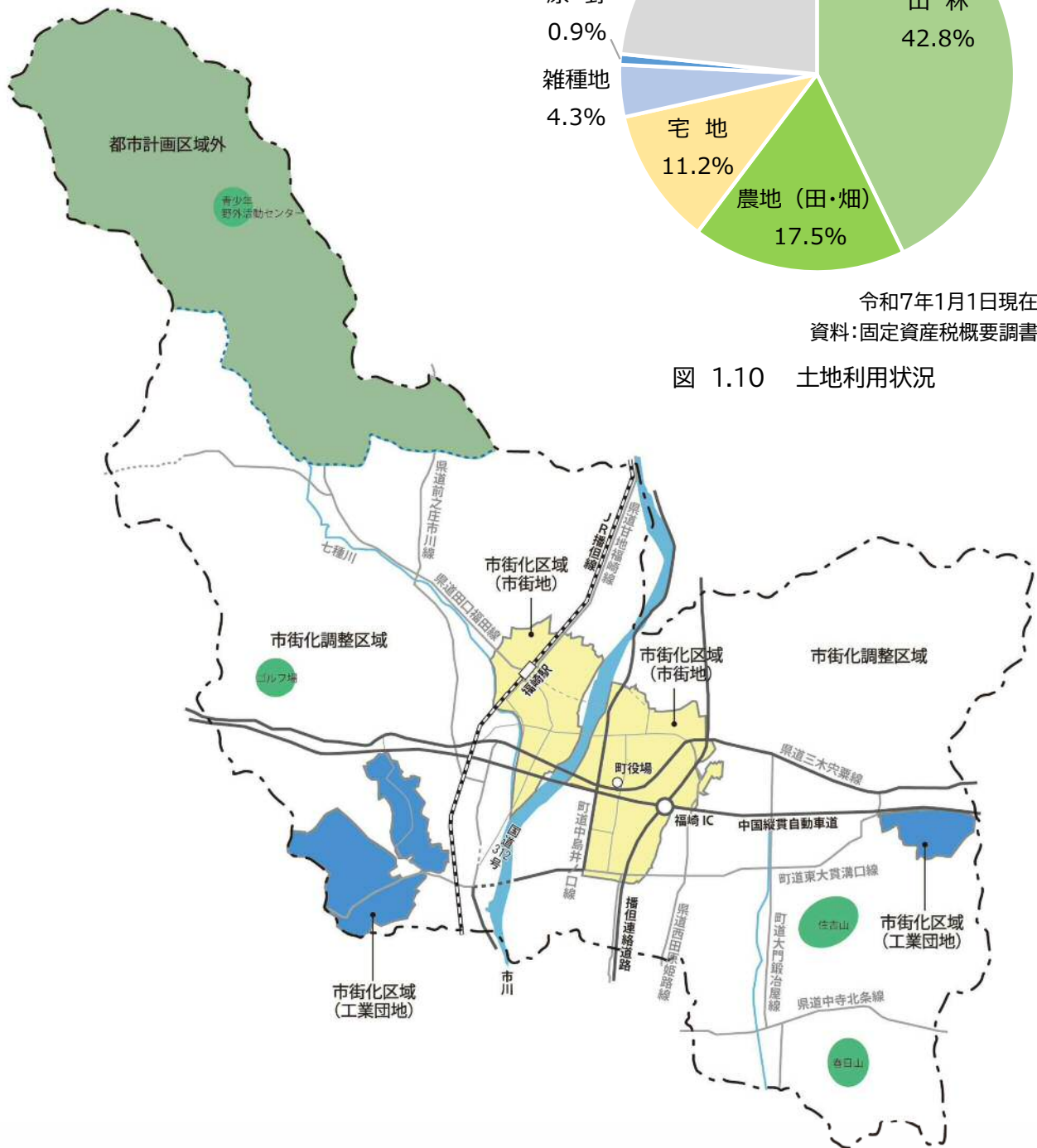


図 1.11 土地利用の現況

2-4. 市街化の動向

本町には人口集中地区(DID)はありませんが、人口密度は駅前地区で高く防災性の向上に努める必要があることから、約12.5haが課題地域*に指定されています。

宅地面積は、昭和50年の231haから、令和6年はその2倍以上となる約513haとなり、全面積4,579haの11.2%となっています。

昭和40年の町中心部建築物分布図と令和2年の町中心部航空写真を比較すると、田原地区では中国縦貫自動車道及び播但連絡道路の開通に加え、県道三木穴栗線や町道中島井ノ口線沿線に役場庁舎や金融機関、物品販売店舗などの進出が進んだことや、住宅地開発に伴う専用住宅の増加が確認できます。福崎駅前地区や新町地区は、昭和40年当時から建物の集積が確認できます。その後、土地区画整理*などは実施されなかったため、現在でも大きな変化はなく、老朽木造建物が密集している状態です。

また、全国的に少子・高齢化の進展に伴って空き家が増加するなか、本町内の空き家は、平成27年は317戸、令和6年は380戸(空き家率約4.3%)となっています。(資料／空き家等実態調査結果)

区域区分*毎の空き家の内訳は、市街化区域が131戸、市街化調整区域*が242戸、都市計画区域*外が7戸となっており、特定の区域に集中しているのではなく、町内全域に空き家が点在している状況にあります。

なお、市街化調整区域*では、厳しい建築制限の下で農家住宅等以外の開発行為は原則禁止されてきましたが、平成14年に兵庫県が特別指定区域制度*を導入し、一定の緩和が図られました。本町では、西大貫地区が平成16年6月に初めて指定されたことを皮切りに、平成19年1月には町内全域で指定されました。

特別指定区域制度*による建築実績(新築)は、令和6年で8件(平成24年から令和6年の平均約13件／年)となっており、市街化調整区域*における集落の活力維持に一定の効果を発揮しています。

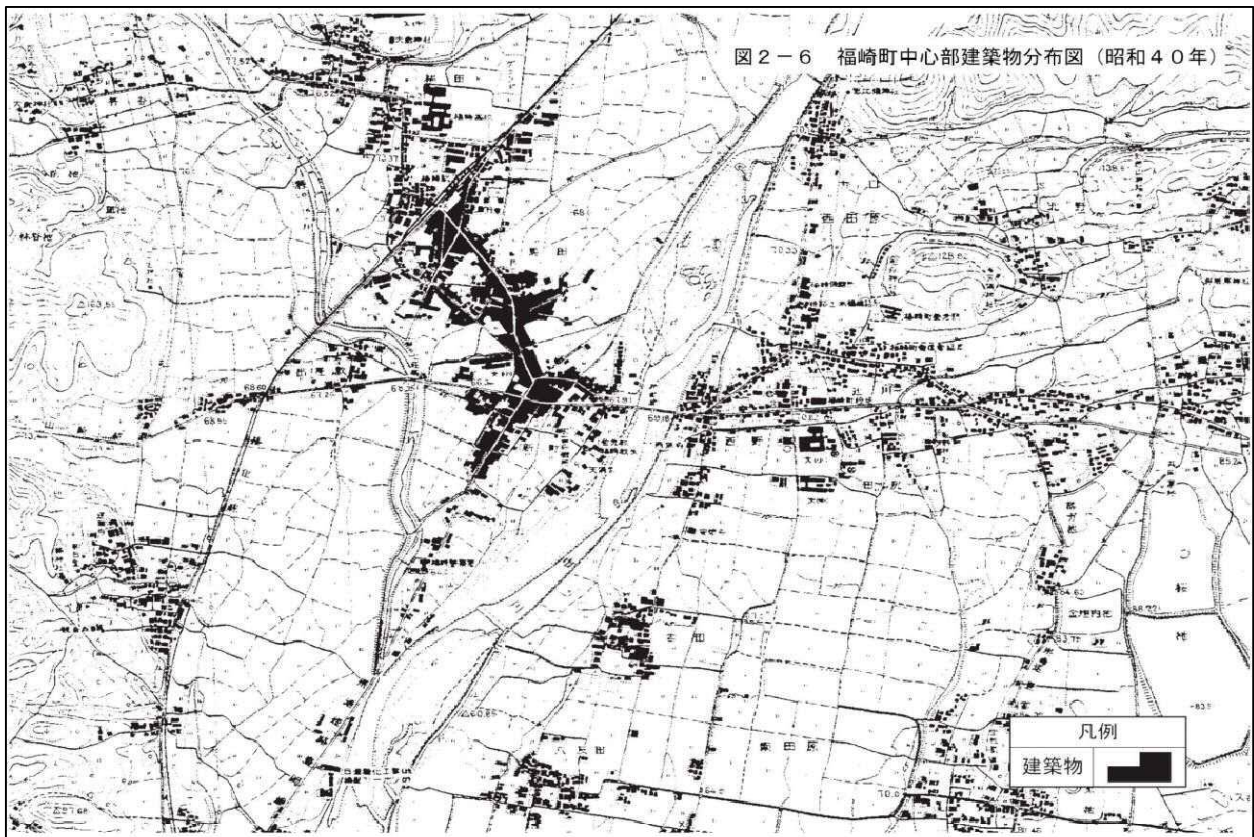
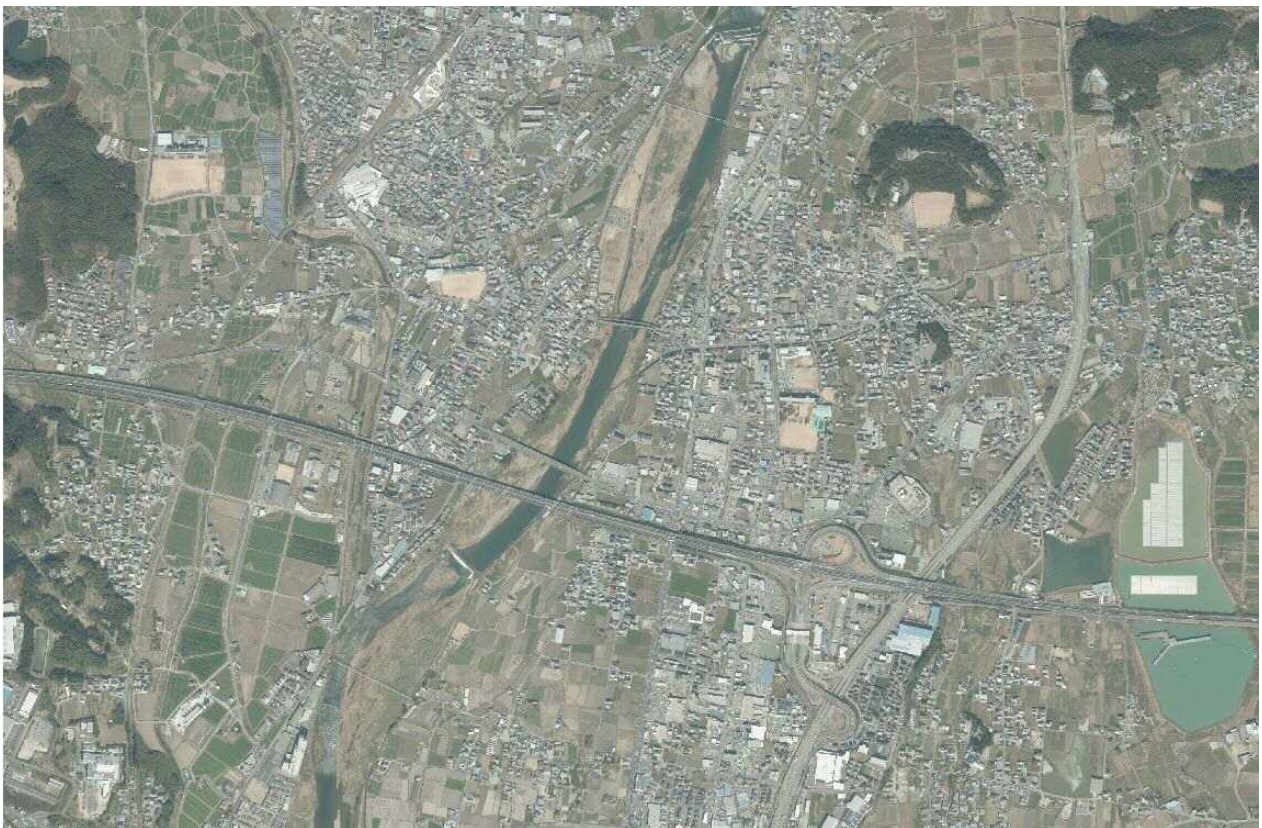


図 1.12 福崎町中心部建築物分布図(昭和40年)



資料:兵庫県デジタル空中写真(播磨地域)

図 1.13 福崎町中心部航空写真(令和2年)

●特別指定区域制度*による建築実績(新築)

◎町土地利用基本計画*(平成19年1月9日指定)

※西大貫地区は地区土地利用計画(平成16年6月11日指定)

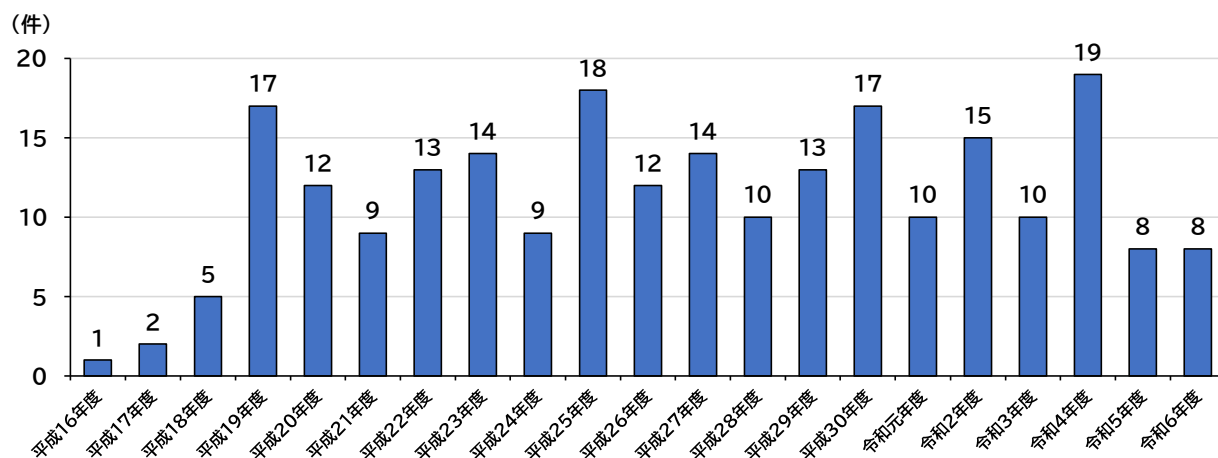


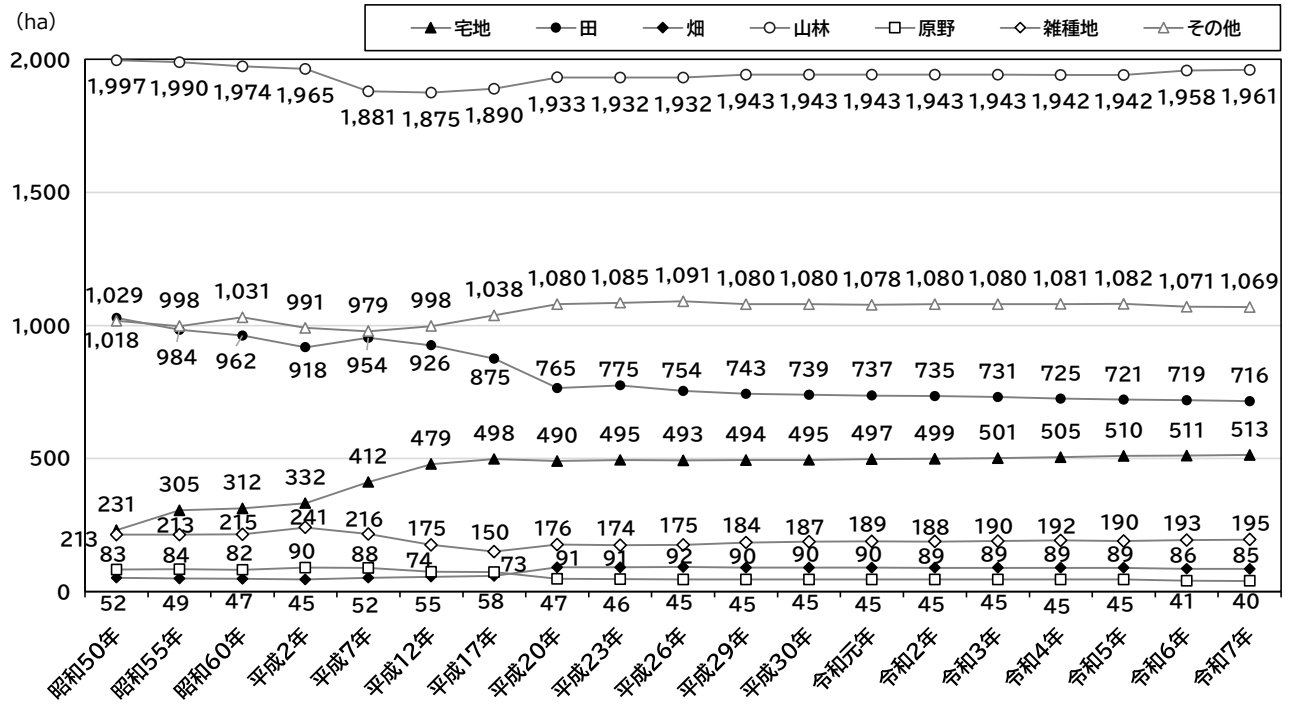
図 1.14 特別指定区域制度*による建築実績(新築)

表 1.11 地区別・集落別の特別指定区域制度*による建築実績(新築)

令和7年3月31日現在

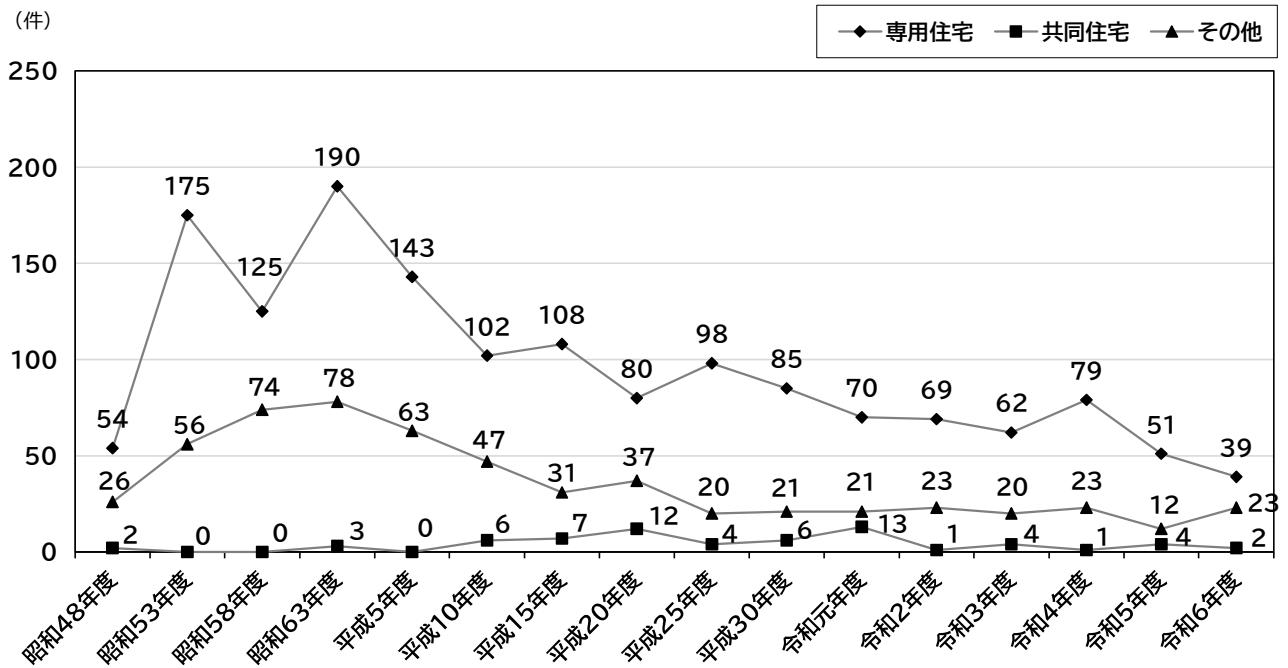
地区名	集落名	集落計(件)
田原地区 13 集落	長目	7
	中島	14
	西光寺	15
	八反田	1
	吉田	4
	西野(野)	0
	井ノ口	5
	北野	3
	辻川	0
	田尻	0
	大門	11
	加治谷	6
	亀坪	0
小計		66
八千種地区 7集落	南大貫	8
	東大貫	5
	西大貫	26
	余田	17
	小倉	2
	庄	10
	鍛冶屋	6
小計		74
福崎地区 13 集落	新町	0
	馬田(出屋敷)	0
	山崎	29
	駅前	0
	福田	17
	田口	0
	板坂	2
	桜	7
	長野	4
	神谷	7
	西谷	7
	西治	17
	高橋	6
小計		96
合計		236

○市街化の動向関係



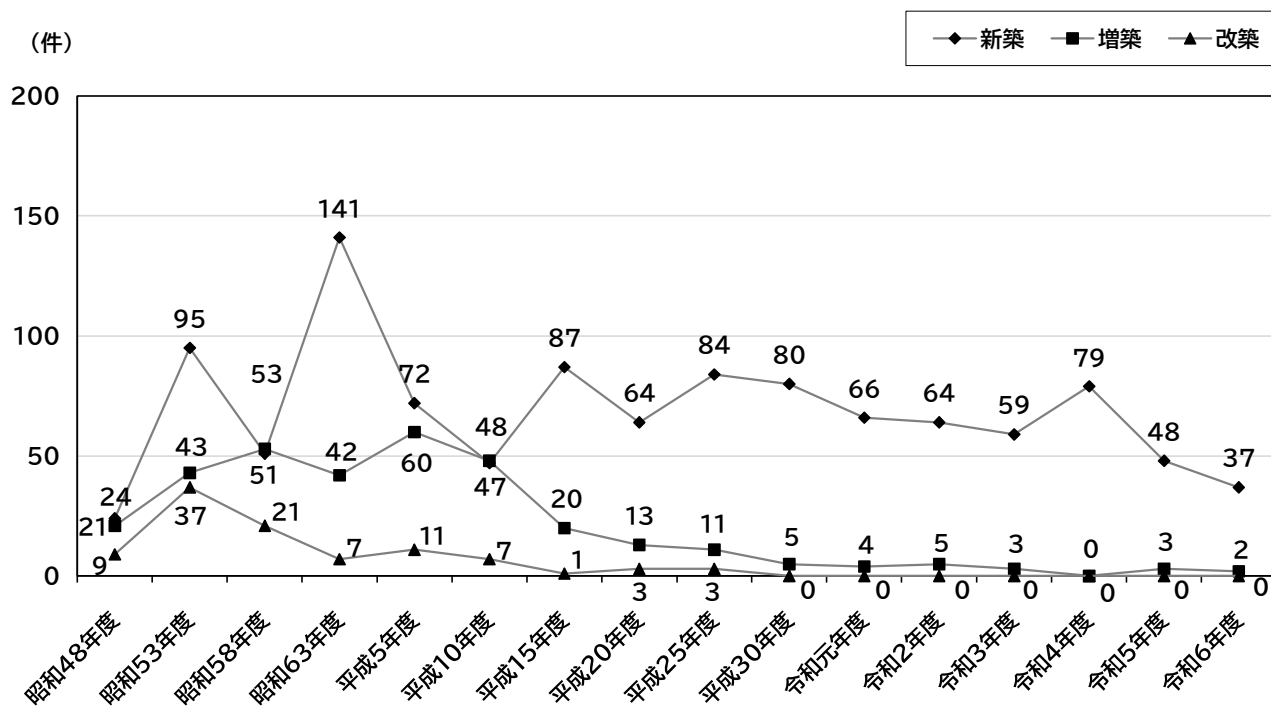
資料:固定資産税概要調査

図 1.15 地目別面積の動向



資料:まちづくり課

図 1.16 住宅種類別年度別新築動向(建築確認申請受理件数の推移)



資料:まちづくり課

図 1.17 専用住宅の年度別申請状況(建築確認申請受理件数の推移)

○空き家関係

表 1.12 集落別空き家の状況(平成27年と令和6年の比較)

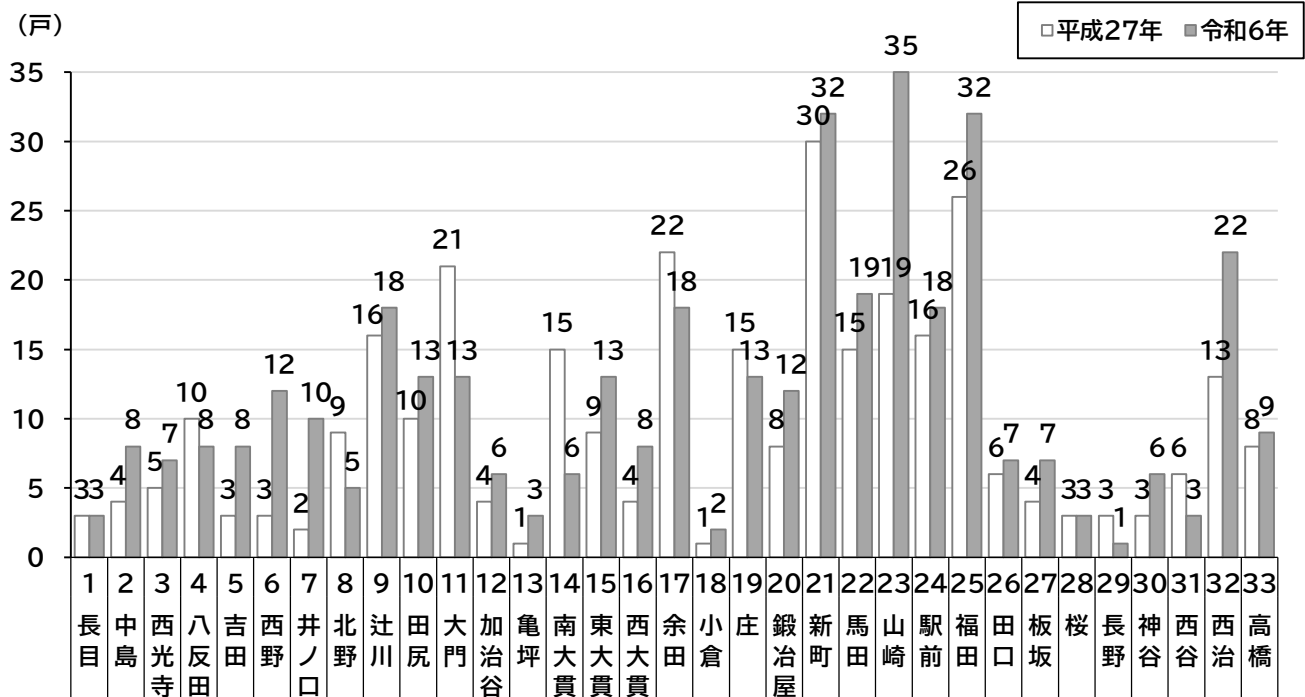
(戸)

番号	地区名	平成27年 空き家	令和6年 空き家	増減
1	長 目	3	3	0
2	中 島	4	8	4
3	西光寺	5	7	2
4	八反田	10	8	-2
5	吉 田	3	8	5
6	西 野	3	12	9
7	井ノ口	2	10	8
8	北 野	9	5	-4
9	辻 川	16	18	2
10	田 尻	10	13	3
11	大 門	21	13	-8
12	加治谷	4	6	2
13	亀 坪	1	3	2
14	南大貫	15	6	-9
15	東大貫	9	13	4
16	西大貫	4	8	4
17	余 田	22	18	-4

番号	地区名	平成27年 空き家	令和6年 空き家	増減
18	小 倉	1	2	1
19	庄	15	13	-2
20	鍛冶屋	8	12	4
21	新 町	30	32	2
22	馬 田	15	19	4
23	山 崎	19	35	16
24	駅 前	16	18	2
25	福 田	26	32	6
26	田 口	6	7	1
27	板 坂	4	7	3
28	桜	3	3	0
29	長 野	3	1	-2
30	神 谷	3	6	3
31	西 谷	6	3	-3
32	西 治	13	22	9
33	高 橋	8	9	1
総数		317	380	63

資料:平成27年は福崎町空家等対策計画(令和6年3月)
令和6年は令和6年空き家調査集計表(令和6年9月)

(戸)



資料:平成27年は福崎町空家等対策計画(令和6年3月)
令和6年は令和6年空き家調査集計表(令和6年9月)

図 1.18 集落別空き家の状況(平成27年と令和6年の比較)

2-5. 産業

(1) 就業者数

令和2年国勢調査*による総就業者数は9,278人で、総人口(夜間人口)に対する就業率は47.9%となっています。また、総就業者数は、平成17年をピークに減少しています。しかしながら、令和2年国勢調査*による本町の昼間人口は21,929人で、夜間人口19,377人を超過しています。昭和60年以降、通勤者の流入人口は一貫して増加しており(P14参照)、これは工業団地等への企業立地が進んだことで、町内に就業の場が多くあるためと考えられます。また、昼間人口比率については、113.2%と県内で最も高い数値となっています(P15参照)。

令和2年の産業別就業者数をみると、第1次産業は202人(2.2%)で平成17年の452人(4.6%)をピークに減少傾向にあります。第2次産業は3,355人(36.2%)で平成12年より減少していますが、平成22年以降から横ばい傾向にあります。第3次産業は5,478人(59.0%)と平成12年からゆるやかな増加傾向にあります。

表 1.13 産業別就業者数の推移

(単位:人、()内%)

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総就業者数	9,214	9,763	9,346	9,434	9,278
第1次産業	331 (3.6)	452 (4.6)	277 (3.0)	241 (2.6)	202 (2.2)
第2次産業	3,619 (39.3)	3,590 (36.8)	3,320 (35.5)	3,315 (35.1)	3,355 (36.2)
第3次産業	5,224 (56.7)	5,655 (57.9)	5,312 (56.8)	5,493 (58.2)	5,478 (59.0)
総人口(夜間人口) (就業率)	19,582 (47.1)	20,669 (47.2)	19,830 (47.1)	19,738 (47.8)	19,377 (47.9)
総人口(昼間人口) (昼間人口比率)	21,741 (111.0)	23,224 (112.4)	22,069 (111.3)	22,187 (112.4)	21,929 (113.2)

資料:国勢調査

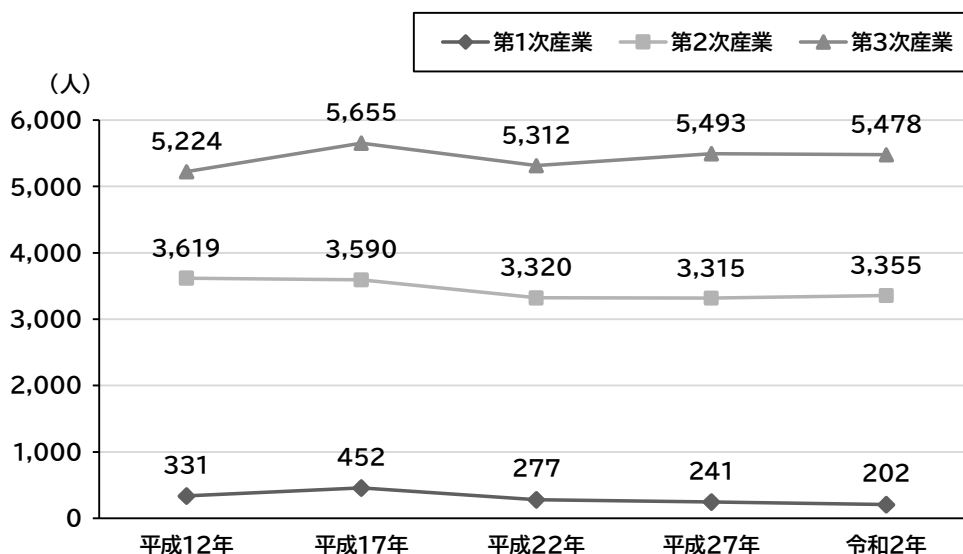


図 1.19 産業別就業者数の推移

(2) 工業

福崎工業団地が稼働した昭和45年以降、多くの優良企業が進出しています。平成20年以降、事業所数は平成29年までは減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。

従業者数は社会情勢による工業団地への企業の進出、撤退の影響を受けながら、平成23年の4,800人から平成24年には一旦3,434人へと大幅に減少しました。その後は景気の好転から増加に転じ、令和5年の従業者数は4,906人となっています。事業所数が減少・横ばいであるのに対し、従業者数は変動があるものの徐々に増加していることから、1事業所当たりの従業者規模が大きくなっていると考えられます。

製造品出荷額等については、平成20年に約2,088億円と2,000億円を超えた後、平成24年には約1,626億円まで落ち込みました。その後、徐々に回復し、近年は概ね2,000億円を超えています。

表 1.14 製造品出荷額等、事業所数、従業者数

	製造品出荷額等 (万円)	事業所数	内従業者		従業者数※ (人)	従業者数上位4業種
			30-299人	300人以上		※日本標準産業分類に基づく分類 (平成26年より第13回改定施行)
平成20年	20,877,417	81	23	2	4,211	電気機械、化学、パルプ・紙、一般機械
平成21年	16,897,645	71	22	1	3,692	電気機械、化学、一般機械、パルプ・紙
平成22年	19,649,680	70	24	2	4,229	電気機械、化学、一般機械、パルプ・紙
平成23年	18,809,364	74	25	3	4,800	電気機械、一般機械、化学、パルプ・紙
平成24年	16,257,499	64	19	2	3,434	化学、パルプ・紙、電気機械、一般機械
平成25年	18,424,563	70	24	2	4,416	電気機械、一般機械、化学、パルプ・紙
平成26年	19,485,801	68	22	3	4,600	電気機械、金属製品、化学、一般機械
平成29年	21,838,913	64	24	3	4,555	金属製品、電気機械、化学、一般機械
平成30年	22,380,954	65	25	3	4,695	金属製品、電気機械、化学、一般機械
令和元年	23,237,444	64	25	4	4,942	金属製品、電気機械、化学、一般機械
令和2年	23,518,481	63	28	3	4,419	電気機械、金属製品、化学、一般機械
令和3年	19,994,461	64	28	2	4,901	金属製品、電気機械、化学、業務用機械
令和4年	22,380,954	65	25	3	4,670	—
令和5年	20,977,033	63	28	3	4,906	—

資料：工業統計、経済サンセス、経済構造実態調査

※従業者数：当該事業所で働いている人をいう。したがって、当該事業所から他の会社などの別経営の事業所へ出向又は派遣している人(送出者)、有期雇用者(1か月未満、日々雇用)は含めない。

表 1.15 工業団地開発の歴史(資料編参照)

年	月	内容
昭和43年	4月	福崎工業団地第1次造成工事着手
昭和44年	4月	福崎工業団地分譲開始
昭和45年	9月	立地企業操業開始
昭和56年	3月	福崎工業団地第4次造成工事完了 (1~4次開発面積83ha)
平成2年	3月	福崎工業団地第5次造成工事着手
平成2年	9月	福崎工業団地第5次造成工事完了 (開発面積1.5ha)
平成5年	6月	福崎企業団地造成工事着手
平成5年	9月	福崎工業団地第6次造成工事着手
平成6年	12月	福崎工業団地第6次造成工事完了 (開発面積17.5ha)
平成7年	11月	福崎企業団地造成工事完了 (開発面積34.4ha)
平成7年	12月	福崎町東部工業団地造成工事着手
平成9年	11月	福崎町東部工業団地造成工事完了 (開発面積34.5ha)
平成26年	8月	福崎町工業団地分譲完了
令和2年	7月	福崎町東部工業団地拡張造成工事着手
令和3年	9月	福崎町東部工業団地拡張造成工事完了 (開発面積約4.5ha)
令和4年	2月	福崎町東部工業団地 (拡張部分) 分譲完了

資料:地域振興課

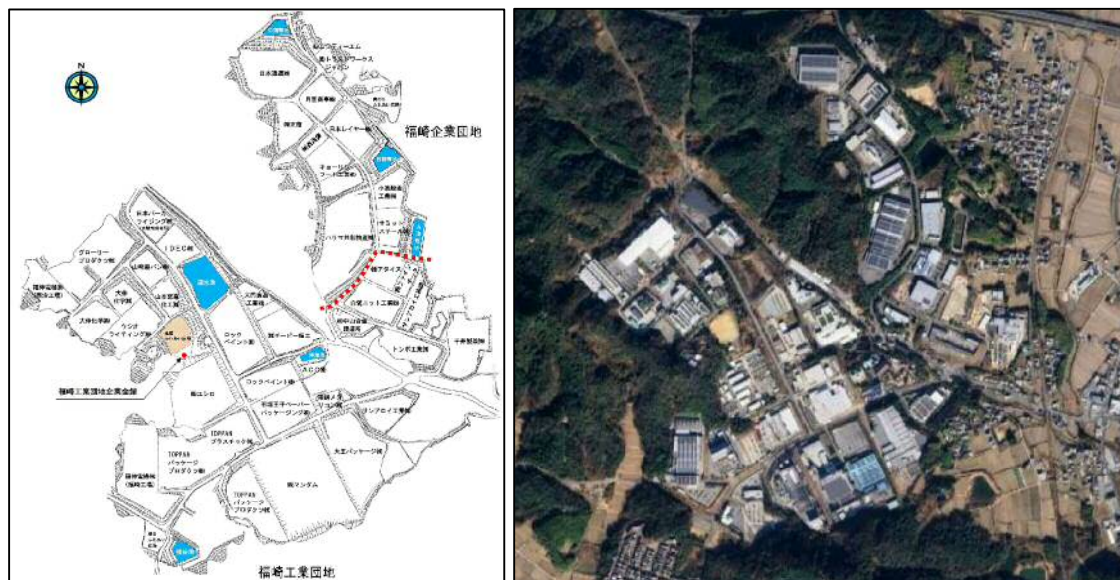


図 1.20 福崎工業団地・福崎企業団地



図 1.21 福崎町東部工業団地

表 1.16 企業の現況①(福崎工業団地)

令和7年4月1日現在

番号	企業名	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	主要製品名・業種	操業開始年月	従業員数(人)		
						男	女	計
1	千寿製菓(株)	36,914	15,109	医薬品製造業(目薬)	昭和49年6月	101	79	180
2	(株)中山合金鋳造所	9,526	1,907	各種非鉄合金鋳造	平成20年10月	37	9	46
3	(株)アタイス	10,519	4,385	金型製造	昭和61年11月	67	3	70
4	白鷺ニット工業(株)	18,254	13,541	インナーウェア	平成12年5月	10	40	50
5	大王パッケージ(株)	41,452	14,740	紙加工品製造業 (段ボールシート・ケース)	平成4年4月	68	16	84
6	(株)マンダム	74,977	62,180	化粧品・香水・ 医薬部外品製造販売	昭和51年3月	149	167	316
7	(株)TOPPANパッケージプロダクツ	101,141	45,730	総合印刷業	昭和49年5月	434	82	516
8	TOPPANプラスチック(株)	26,637	9,064	プラスチック製品	昭和51年8月	106	59	165
9	(株)エーシーシー	3,631	2,070	自動車部品製造	平成9年	3	0	3
10	石塚王子ペーパーパッケージング(株)	23,381	11,605	液体用紙容器製造	昭和52年2月	151	21	172
11	ロックペイント(株)	44,233	10,362	塗料製造業	昭和55年4月	40	13	53
12	(株)ユシロ	44,828	5,994	油脂加工業・金属加工油 剤・ビルメンテナンス用製品	昭和55年6月	39	6	45
13	大円食品工業(株)	5,028	2,568	製造業(清涼飲料水)	昭和52年8月	24	5	29
14	(株)デービー精工	19,400	14,597	自動車用電装部品製造	昭和56年7月	129	55	184
15	I D E C(株)	16,668	9,467	電気機械器具製造業	昭和59年6月	56	67	123
16	日本パーカライズング(株)	14,840	0	太陽光発電	平成25年9月	—	—	—
17	グローリープロダクツ(株)	49,072	23,673	通貨処理機、情報処理機等 の製造	平成2年5月	299	216	515
18	山崎製パン(株)	10,336	2,075	製パン業	昭和57年4月	109	19	128
19	山本窯業化工(株)	11,391	6,095	建築仕上塗材	昭和58年2月	16	3	19
20	ウシオライティング(株)	23,174	12,282	電気機械器具製造業	昭和58年6月	70	87	157
21	大伸化学(株)	30,466	6,399	塗料製造業 (溶剤、各種シンナー)	昭和60年5月	43	17	60
22	福伸電機(株)【福崎工場】	83,065	34,024	自動車用部品、航空機部 品、医療器、電動カート他	平成7年11月	221	81	302
23	福伸電機(株)【西治工場】	19,560	9,802	自動車用部品	平成18年5月	73	20	93
24	サンアロイ工業(株)	14,336	6,595	超硬質合金製造販売	平成13年1月	125	29	154
25	トンボ工業(株)	22,682	5,093	ショベル・スコップ・ガーデニング 用品の製造販売	平成28年11月	7	2	9
26	姫路メタリコン(株)	3,911	2,319	金属加工 (ガスタービン燃焼器部品)	令和2年7月	29	4	33
27	(株)ファインテック	6,661	1,910	産業用刃物メーカー	令和5年7月	3	7	10
計		766,086	333,585			2,409	1,107	3,516

資料:地域振興課

表 1.17 企業の現況②(福崎企業団地)

令和7年4月1日現在

番号	企業名	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	主要製品名・業種	操業開始年月	従業員数(人)		
						男	女	計
1	ハリマ共和物産(株)	52,831	26,527	倉庫業	平成18年6月	78	192	270
2	キョーリンフード工業(株)	24,809	8,000	飼料製造業 (観賞魚飼料)	平成19年11月	36	35	71
3	(株)西兵庫	5,465	2,293	昆布卸売業、加工業	平成11年9月	15	22	37
4	(株)正徳	14,643	5,034	食品製造業(油揚げ類)	平成25年12月	43	34	77
5	日本通運(株)	40,467	26,447	運輸・倉庫業	平成16年9月	37	16	53
6	サミットスチール(株)	13,323	5,436	鉄鋼業	平成8年11月	30	5	35
7	小池酸素工業(株)	13,089	927	無機化学製造業	平成10年10月	3	1	4
8	日本レイヤー(株)	19,859	4,673	孵化業(初生ひな)	平成15年6月	18	21	39
9	月星商事(株)	13,444	8,243	表面処理鋼板等卸売業	平成9年4月	11	7	18
10	(株)トラストワークスジャパン	3,585	1,016	産業機械、専用機、合理化 設備製造	平成19年9月	13	2	15
11	(有)エフディーエム	5,406	720	プレス金型製作・ 精密機械加工	平成14年3月	11	2	13
計		206,921	89,316			295	337	632

資料:地域振興課

表 1.18 企業の現況③(福崎町東部工業団地)

令和7年4月1日現在

番号	企業名	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	主要製品名・業種	操業開始年月	従業員数(人)		
						男	女	計
1	渋谷工業(株)	18,105	6,481	鋳前	平成13年11月	23	72	95
2	(株)中塚製作所	11,940	5,039	金属加工業	平成20年5月	15	5	20
3	兵庫紙倉庫(株)	26,550	14,209	倉庫業	平成14年12月	0	2	2
4	大地化成(株)	52,368	13,695	製造業、医薬品原薬	平成27年3月	42	40	82
5	(株)阪神住建	46,501	—	太陽光発電事業	平成26年3月	—	—	—
6	(株)安田運輸	14,519	10,726	一般貨物自動車運送業、倉 庫業	平成19年11月	27	4	31
7	サント工業(株)	1,611	468	各種コンベア・運搬車設計製 作・各種製作	平成16年5月	3	1	4
8	(株)まほろば製作所	3,332	1,037	特殊ガラス加工	平成19年8月	4	18	22
9	(株)ツボサカ精工	16,429	4,102	金属加工業・油圧機器部品	令和4年2月	76	26	102
計		191,354	55,756			190	168	358

資料:地域振興課

(3) 商業

本町では福崎IC周辺をはじめ幹線道路沿道に大型小売店舗や沿道サービス施設が集積しています。

令和3年経済センサス調査による卸売業、小売業の動向をみると平成6年から令和3年までの27年間で約160店の商店が減少しています。年間販売額は、平成14年以降減少傾向にあります。これは、幹線道路沿道への大型小売店舗の出店やインターネットショッピングの普及など商業形態の急激な変化によって、小規模小売店舗の廃業が相次いだことや人々の生活様式が変化したこと等の要因が考えられます。

表 1.19 卸売業・小売業年間販売額、商店数、従業者数

	卸売業			小売業							計		
	年間 販売額 (百万円)	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)	大型店	他小売店	商店数 (店)	従業者数 (人)	売場面積 (㎡)	1店当り 売場面積 (㎡)	年間 販売額 (百万円)	商店数 (店)	従業者数 (人)
平成6年	21,737	45	446	29,631	6,699	22,932	316	1,631	43,928	139	51,368	361	2,077
平成9年	28,983	52	554	36,928	11,937	24,991	309	1,573	46,876	152	65,911	361	2,127
平成11年	26,863	61	559	36,240	10,666	25,574	302	1,745	48,796	162	63,103	363	2,304
平成14年	31,961	49	600	31,971	10,165	21,806	301	1,711	46,026	153	63,932	350	2,311
平成16年	26,570	37	415	33,732	—	—	287	1,727	45,959	160	60,302	324	2,142
平成19年	29,567	42	345	33,333	—	—	266	1,767	47,791	180	62,900	308	2,112
平成24年	22,965	33	327	23,094	—	—	156	1,223	33,945	218	46,059	189	1,550
平成26年	18,786	34	362	27,162	—	—	173	1,204	32,877	190	45,948	207	1,566
平成28年	27,511	41	402	28,950	—	—	170	1,396	39,598	233	56,461	211	1,798
令和3年	24,659	38	485	28,969	—	—	166	1,452	39,113	236	53,628	204	1,937

資料：商業統計(飲食店データを含まない)、令和3年経済センサス活動調査
 ※平成12年より前の大型店とは、「大店法」による500㎡以上の店舗であり、
 平成12年以降は、「大店立地法」による1,000㎡以上の店舗である

(4) 農業

本町の農地は、水田の割合が高く、米作を中心とした第2種兼業農家が大半を占めています。市街化調整区域*の農業振興区域内では、これまでに19集落でほ場整備*を実施しており、令和7年3月31日時点で農振農用地面積の約580haの内、約69%にあたる401.7haが完了しています。

特産のもち麦の作付面積は、もちむぎ商品の需要拡大などにより拡大傾向にありましたが、近年は減少傾向にあります。

また、経営耕地面積は、平成2年から減少の傾向にあり、平成2年から令和2年の31年間で、約5割に減少し、面積合計では816haから433haになっています。

表 1.20 年度別もち麦の作付面積

年度産	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
作付面積 (ha)	40.2	48.4	46.1	28.7	29.0	19.7

資料：農林振興課

表 1.21 経営耕地面積の推移

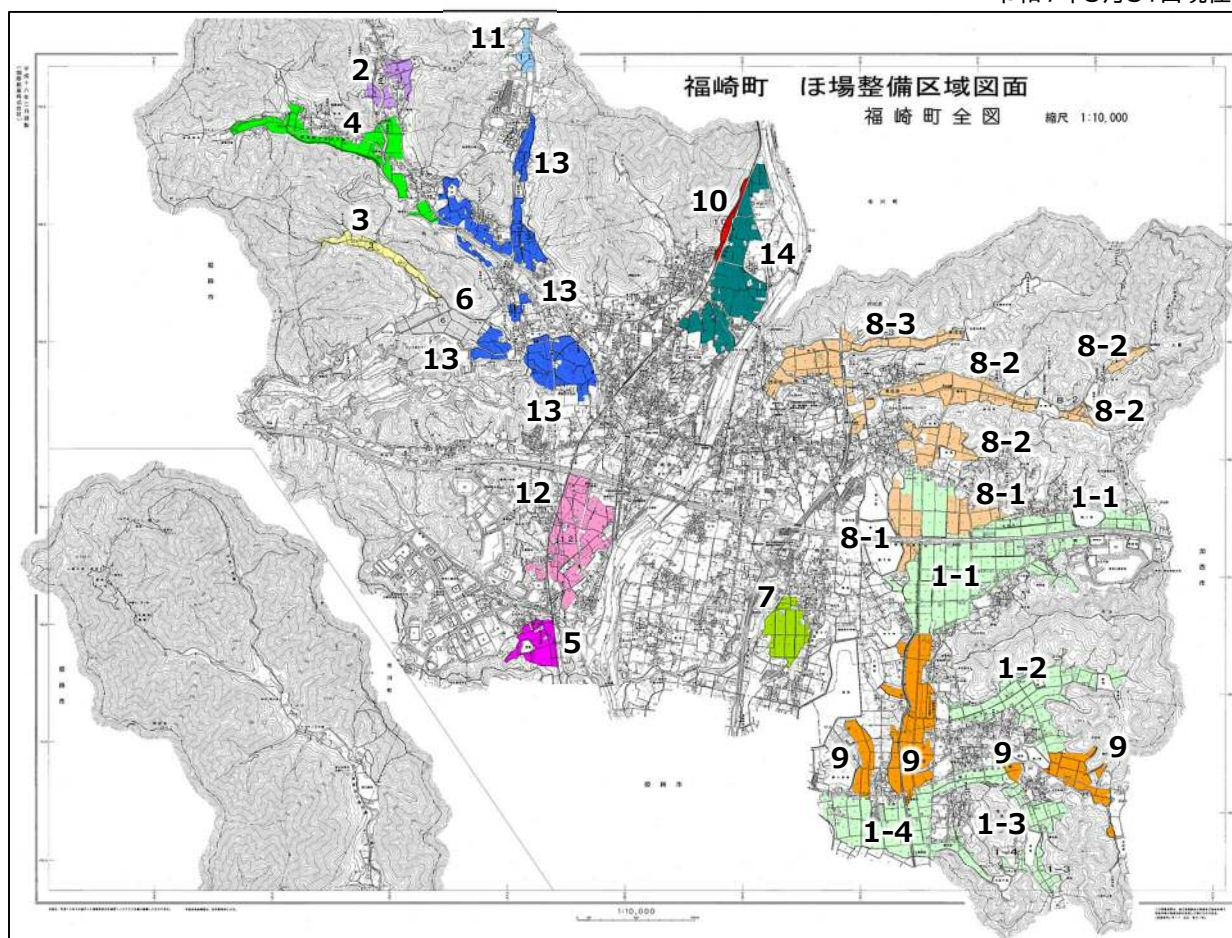
区分	経営耕地(ha)			
	田	畑	樹園地	計
平成2年	797	15	4	816
平成7年	703	20	6	729
平成12年	677	22	3	702
平成17年	469	15	1	485
平成22年	512	11	1	524
平成27年	478	14	1	493
令和2年	419	12	2	433

資料：農林業センサス

表 1.22 ほ場整備*実施状況の推移

番号	工事着手 (年度)	事業 主体	工事完了 公告日 (年.月.日)	換地処分 公告日 (年.月.日)	全体 地区面積 (ha)	整地面積 (ha)	整備場所
1-1	昭和45年	県	昭和55年12月16日	昭和57年3月16日	102.1	85.7	福崎東部地区1工区(大貫、大門、西光寺)
1-2	昭和49年	県	昭和54年9月11日	昭和57年3月19日	35.5	29.6	福崎東部地区7工区(余田)
1-3	昭和50年	県	昭和54年9月11日	昭和56年3月27日	13.4	10.2	福崎東部地区9工区(小倉)
1-4	昭和51年	県	昭和54年9月11日	昭和57年3月23日	47.9	42.8	福崎東部地区10工区(鍛冶屋、庄)
2	昭和56年	町	—	昭和59年3月30日	9.8	8.0	田口地区
3	昭和58年	町	昭和61年4月8日	昭和60年3月29日	6.1	5.9	高岡(大内)地区
4	昭和59年	町	平成2年3月31日	平成2年3月30日	27.2	21.5	高岡(板坂)地区
5	昭和62年	町	—	平成元年3月28日	9.8	8.0	高橋地区
6	平成元年	町	平成3年3月25日	平成3年3月29日	15.5	12.7	高岡 矢口(長野、神谷)地区
7	平成4年	町	平成6年3月31日	平成6年3月18日	14.9	11.9	西光寺地区
8-1	平成2年	県	平成6年3月10日	平成14年12月6日	36.9	(28.5) 22.5	田原東部地区1工区(大門、西大貫) うち6haは再整備
8-2	平成7年	県	平成10年3月20日	平成12年3月28日	28.4	22.2	田原東部地区2工区(加治谷、亀坪)
8-3	平成5年	県	平成7年3月30日	平成9年12月16日	27.8	20.5	田原東部地区3工区(井ノ口、北野、加治谷)
9	平成8年	県	平成16年3月31日	平成16年9月7日	56.4	42.3	八千種地区(庄、余田、小倉)
10	平成17年	組合	—	平成20年3月18日	2.3	1.6	山崎千束地区
11	平成20年	組合	平成24年11月9日	平成25年2月26日	3.0	2.3	田口塩田地区
12	平成21年	県	—	平成28年3月4日	32.7	24.2	西治地区
13	平成29年	県	—	—	52.1	29.8	高岡福田地区
14	—	県	—	—	37.8	0	山崎地区
合 計					559.6	401.7	

令和7年3月31日現在



資料:農林振興課

図 1.22 ほ場整備*区域

表 1.23 地区集落別 農振地域、農用地、ほ場整備*の状況

令和7年3月31日現在

地区名	集落名	農振地域	農用地	ほ場整備	ほ場整備実施地区名(換地処分年)
田原 (13集落)	長目	○	○		
	中島	○	○		
	西光寺	○	○	○	福崎東部1工区(昭和57年)、西光寺(平成6年)
	八反田	○	○		
	吉田	○	○		
	西野				
	井ノ口	○	○	○	田原東部3工区(平成9年)
	北野	○	○	○	田原東部3工区(平成9年)
	辻川				
	田尻				
	大門	○	○	○	田原東部1工区(平成14年)
	加治谷	○	○	○	田原東部2工区(平成12年)、田原東部3工区(平成9年)
	亀坪	○	○	○	田原東部2工区(平成12年)
八千種 (7集落)	南大貫	○	○	○	福崎東部1工区(昭和57年)
	東大貫	○	○	○	福崎東部1工区(昭和57年)
	西大貫	○	○	○	福崎東部1工区(昭和57年)、田原東部1工区(平成14年)
	余田	○	○	○	福崎東部7工区(昭和57年)、八千種(平成16年)
	小倉	○	○	○	福崎東部7工区(昭和56年)、八千種(平成16年)
	庄	○	○	○	福崎東部10工区(昭和57年)、八千種(平成16年)
	鍛冶屋	○	○	○	福崎東部10工区(昭和57年)
福崎 (13集落)	新町	○			
	馬田	○			
	山崎	○	○	○	山崎千束(平成20年)、山崎(予定)
	駅前				
	福田	○	○	※	高岡福田7工区(実施中)
	田口	○	○	○	田口(昭和59年)、田口塩田(平成25年)
	板坂	○	○	○	大内(昭和60年)、板坂(平成2年)、高岡福田1工区(実施中)
	桜	○	○	※	高岡福田2,3,4工区(実施中)
	長野	○	○	○	高岡矢口(平成3年)、高岡福田3,5,8工区(実施中)
	神谷	○	○	※	高岡福田5,6,7工区(実施中)
	西谷	○			
	西治	○	○	○	西治(平成28年)
	高橋	○	○	○	高橋(平成元年)
計33集落		29集落	26集落	19集落	

資料:農林振興課



ほ場整備*区域(高岡福田)

2-6. 交通・道路等

(1) 交通

本町の公共交通機関は、鉄道と路線バス及びコミュニティバス*があります。

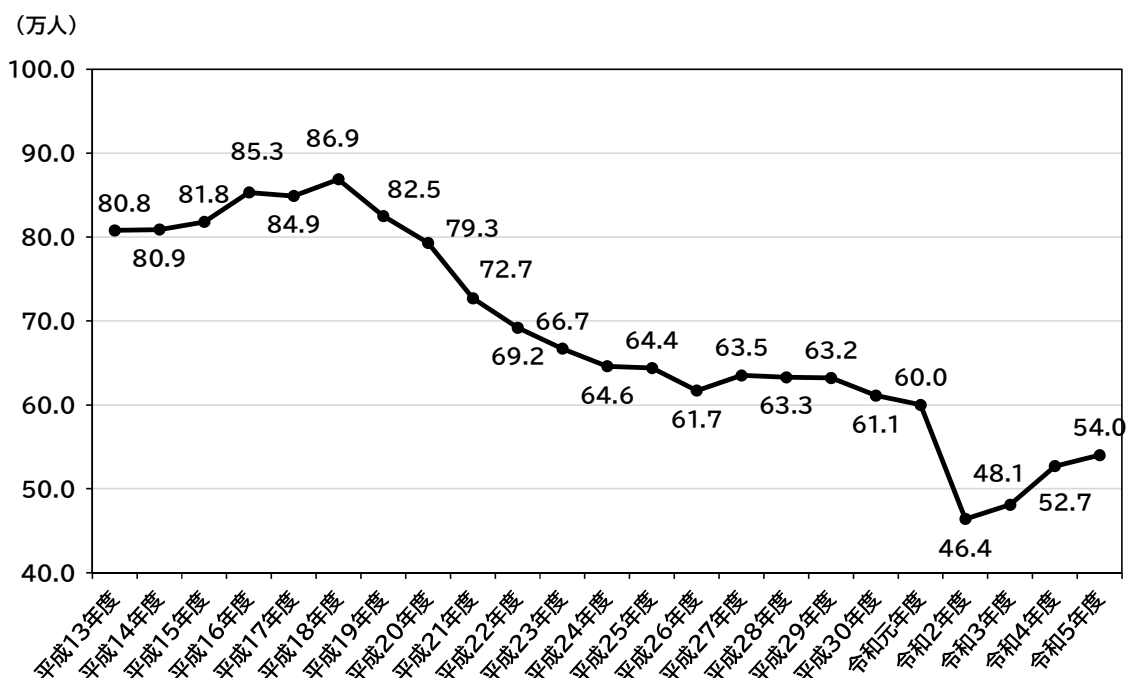
鉄道については、姫路市と朝来市和田山町を結ぶJR播但線が市川の西側を南北に走っており、町内には福崎駅があります。平成7～9年度の3カ年で姫路～寺前間 29.6kmの電化工事が進められ、平成10年3月14日に電化・高速化されました。電化前後を比較すると福崎～姫路間の本数は6本／日増、平均所要時間は約5分短縮(いずれも上り)されましたが、年間乗車人員は平成 18 年をピーク(86.9 万人)に減少傾向にあり、令和5年には 54.0 万人となっています。一方で、福崎駅におけるICOCAカードの利用の開始や、バリアフリー*ルートの整備を目的としたエレベーターの設置などの利便性の向上が図られています。

路線バスについては、神姫バスが姫路駅及び加西市北条方面へ運行しています。高速バスは神姫バスとJRバスが中国自動車道の福崎ICを経由し、大阪及び岡山県津山方面へ運行しています。

なお、神姫バスの瀬加～福崎線、栗賀～福崎線、及び全但バスの阪急三宮～城崎温泉線の福崎停留所の取扱いは、平成20年以降順次廃止となっています。路線バスの運行を継続することは非常に重要であるため、国庫補助事業等を活用し、バス運行事業者と協力しながらバス路線の維持確保を図っています。

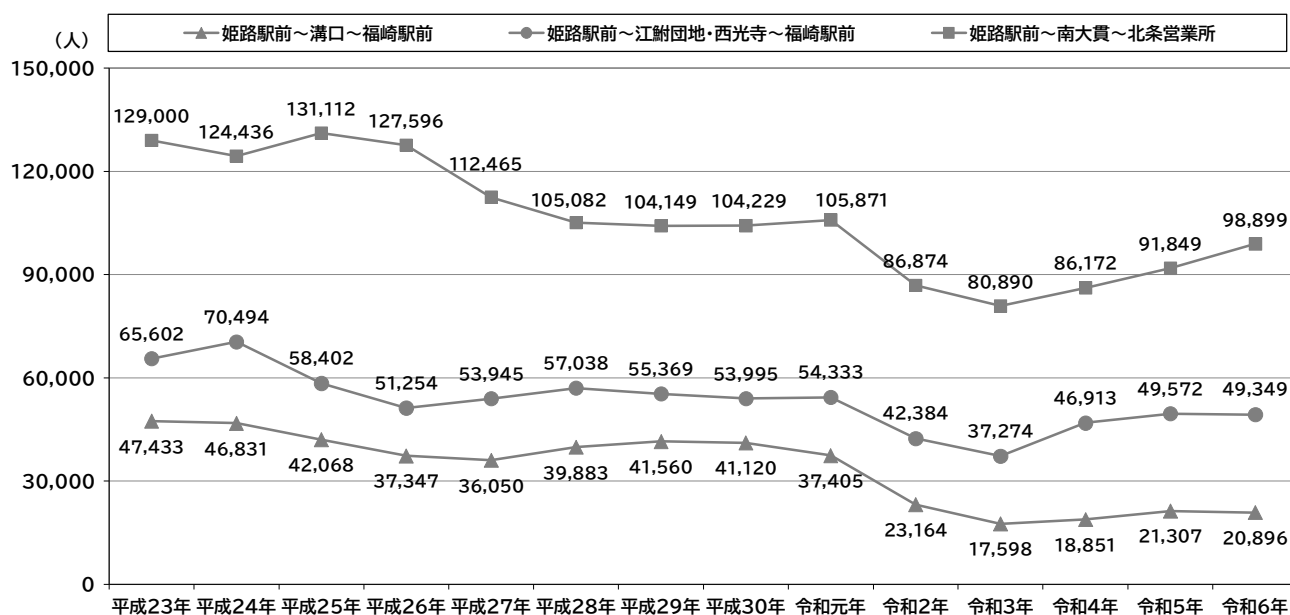
コミュニティバス*である町内巡回バス「サルビア号」は、平成30年10月に大規模な運行再編を行い、買い物困難地域を対象とした買い物便や、地域間連携のための市川町連携デマンド*タクシーを新規運行しました。また、令和3年4月より、本町と姫路市間を運行する福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」が本格運行を開始し、町内外の通勤利用をはじめとしたさまざまな場面で重要な移動手段となっています。

安心して暮らせるまちづくりのため、今後も利便性の向上や利用促進を行い、地域公共交通の活性化をめざします。



資料: 西日本旅客鉄道株式会社福知山支社

図 1.23 福崎駅乗車人員の推移



資料: 令和4年以前は福崎町地域公共交通計画(令和6年3月)
令和5・6年は神姫バス株式会社

図 1.24 路線バス乗車人員の推移(福崎町外含む路線全体)

表 1.26 福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」の利用者の推移

各年度3月31日現在

年度	利用者合計 (人)	対前年比 (%)	日平均 (人)	運行日数 (日)	備考
令和3年	14,590	—	49.5	295	
令和4年	21,073	144.4	86.0	245	4/1再編、土曜日運行の廃止、運行本数の増便他
令和5年	20,373	96.7	83.2	245	
令和6年	22,844	112.1	92.1	248	

資料: まちづくり課



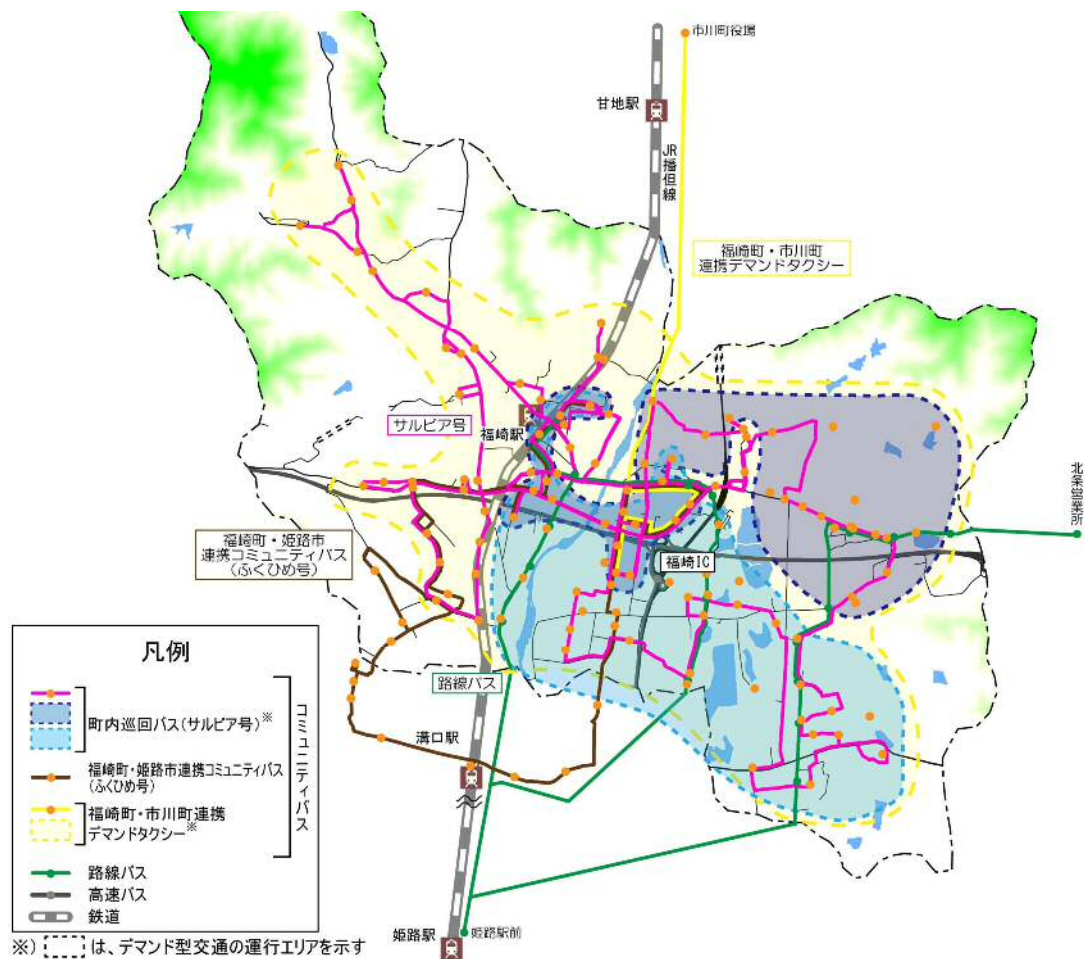
福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」

表 1.27 町内巡回バス「サルビア号」等の利用者の推移

各年度3月31日現在

年度	利用者合計 (人)	対前年比 (%)	日平均 (人)	運行日 数(日)	備考
平成23年	12,283	96.1	34	359	
平成24年	11,397	92.8	34	338	12/3再編(コミバスへ)まちなか便・郊外便
平成25年	13,009	114.1	44	294	
平成26年	14,573	112.0	49	296	4/1川西郊外便を提示定路線へ変更
平成27年	16,619	114.0	56	295	4/1北ノ岡バス停移動
平成28年	17,874	107.5	60	295	
平成29年	19,379	102.5	65	294	4/1神谷バス停移動・10/1吉田西バス停新設
平成30年	18,607	96.0	64	293	10/1再編、市川町連携、買い物バス運行開始
令和元年	19,860	106.7	69	290	10/1再編 川西便路線延長他
令和2年	15,658	78.8	53	294	
令和3年	16,660	106.4	56	295	
令和4年	19,714	118.3	67	294	
令和5年	20,884	105.9	69	300	
令和6年	20,665	99.0	70	293	

資料:福祉課



令和7年7月現在

図 1.25 バス路線現況

(2) 道路(国道・県道・町道)

本町には、広域的な人の移動や物流を支える道路ネットワークとして、東西方向には中国縦貫自動車道、南北方向には播但連絡道路があります。また、都市間を結ぶ主要な幹線道路として国道312号や県道三木穴栗線があるほか、5路線の県道があります(県道西田原姫路線、県道甘地福崎線、県道田口福田線、県道前之庄市川線、県道中寺北条線)。

町道の改良率は、重要な路線である1級町道は全て改良済となっているものの、2級町道は 69.2%、その他町道は 28.3%と改良が必要な路線が多く残っており、合計で 52.9%となっています。

表 1.28 町道の現況及び改良率

令和7年6月1日現在

区分	1級	2級	その他	計
路線数(本)	15	255	505	775
実延長:A(km)	24.6	108.4	119.2	252.2
改良済延長:B(km)	24.6	75.0	33.7	133.3
改良率:B/A(%)	100.0	69.2	28.3	52.9

資料:まちづくり課



福崎 IC 周辺(平成 27 年)

(3) 都市計画道路*

都市計画道路*は、昭和51年と56年に7路線、計画総延長 15,690mを都市計画決定*しましたが、「都市計画道路網見直しガイドライン(兵庫県平成23年3月策定)」に基づき、都市計画決定*存続の必要性を検証した結果、平成27年3月に旧高橋山崎線の全線、及び辻川田尻線、大門福田線の一部を廃止*しました。これにより計画決定した都市計画道路*は6路線、計画総延長 11,210mとなりました。概成含む整備済延長は 9,230m(整備率 82.3%)となっています。

※ただし、旧高橋山崎線の一部は高橋西治線として再決定しています。

表 1.29 都市計画道路*の現況

令和6年3月31日現在

名 称		幅員 (m)	延長 (m)	整備済延長 (概成含む) (m)	整備整備率 (概成含む) (%)
番号	路線名				
3.4.25	高橋西治線	16	1,830	1,330	72.7
3.4.250	大門西治線	18	3,340	3,340	100.0
3.4.651	西光寺高橋線	16	2,630	2,220	84.4
3.4.654	辻川北野線	16	560	250	44.6
3.4.653	中島井ノ口線	16	1,980	1,980	100.0
3.4.655	福崎駅田原線	14	870	110	12.6
計		—	11,210	9,230	82.3

資料:まちづくり課

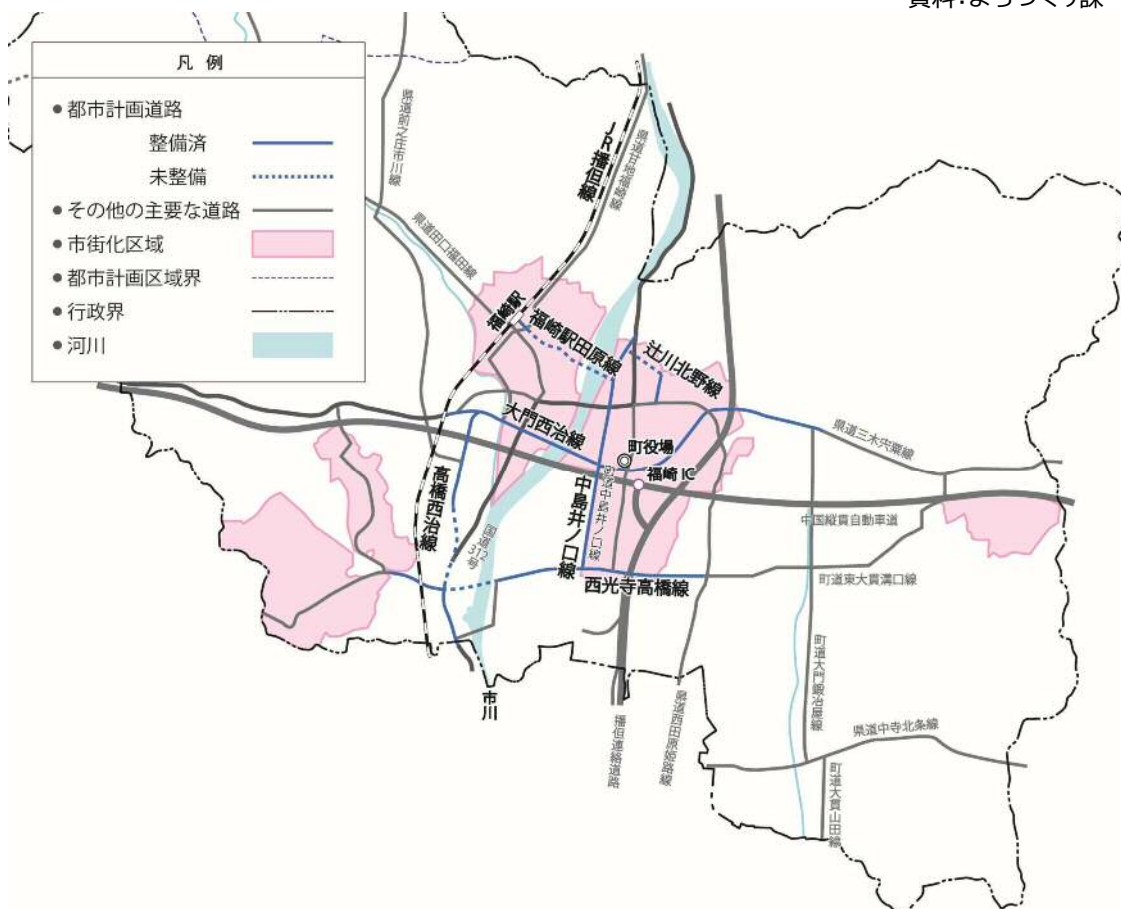


図 1.26 都市計画道路*網

2-7. 公園・緑地*

(1) 都市計画公園

本町は、1公園、面積 2.52haを平成9年1月に都市計画決定*しています。

近隣公園	市川河川公園	2.52ha
------	--------	--------

資料:まちづくり課

(2) 都市公園*等

本町の都市公園*等は下記のとおりです。

表 1.30 都市公園*等一覧

分類	番号	施設名	所在地区	面積(ha)
都市公園	A	市川河川公園	福崎新	2.52
	B	イーストパーク	大貫	1.06
	C	辻川山公園	西田原	0.47
	D	駅前児童公園	福田	0.14
	E	宮の丘公園	西治	1.16
	F	第2イーストパーク	大貫	0.18
ふれあい 広場	1	谷田ふれあい広場	西田原	0.03
	2	桜児童ふれあい広場	福田	0.13
	3	野添ふれあい広場	福田	0.02
	4	竹ノ元ふれあい広場	馬田	0.02
	5	角田ふれあい広場	福崎新	0.02
	6	北ノ岡第一ふれあい広場	西治	0.11
	7	北ノ岡第二ふれあい広場	西治	0.04
	8	鐘イバふれあい広場	東田原	0.06
	9	東田黒ふれあい広場	福田	0.01
	10	駅前ふれあい広場	福田	0.04
	11	牛房谷ふれあい広場	八千種	0.01
	12	東水田ふれあい広場	西田原	0.01
	13	辻ノ前第一ふれあい広場	西田原	0.01
	14	玉屋ふれあい広場	八千種	0.02
	15	県民ふれあい広場	西治	1.18
	16	桧谷ふれあい広場	高橋	0.62
	17	高野ふれあい広場	南田原	0.04
	18	仁王下ふれあい広場	南田原	0.02
	19	高橋ふれあい広場	高橋	0.79
	20	サクラ池ニュービレッジふれあい広場	東田原	0.03
	21	ディアタウン南田原ふれあい広場	南田原	0.02
	22	サルビアサンワタウンふれあい広場	西治	0.02
	23	ブライツヒルズ福崎駅前ふれあい広場	福田	0.02
	24	辻ノ前第二ふれあい広場	西田原	0.02
	25	辻川サルビアふれあい広場	西田原	0.02
	26	辻川みつばちふれあい広場	西田原	0.02
	27	野田ふれあい広場	西田原	0.02
	28	新町ふれあい広場	福崎新	0.02
	29	にしのふれあい広場	南田原	0.02
	30	北野ふれあい広場	西田原	0.02
	31	かみのだふれあい広場	西田原	0.02

資料:まちづくり課



市川河川公園



イーストパーク



辻川山公園

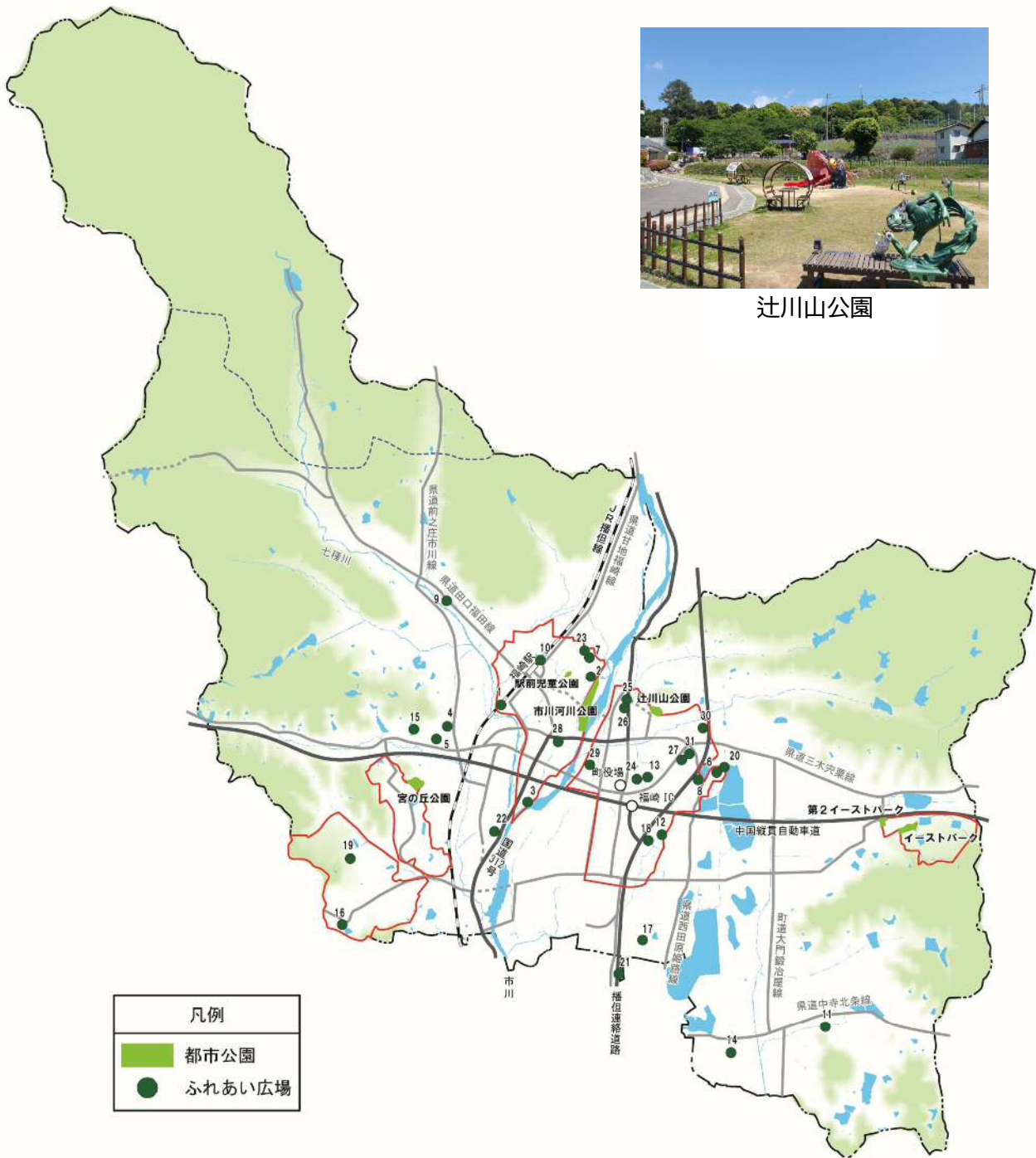


図 1.27 公園・緑地*の現況

2-8. 上水道・下水道

(1) 上水道

上水道は、昭和46年4月に上水道事業に移行し、拡張工事を経て、令和6年度の計画給水人口は18,384人、1日平均使用水量6,407m³、給水人口率99.5%となっています。

現在の水道を取り巻く環境は、「普及・拡大」から「維持・更新」へと移り変わっています。本町では、下水道の面整備工事に合わせて老朽管の更新工事を順次行い、石綿管は撤去しています。

表 1.31 上水道普及状況の推移

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
行政区域内人口(人)	19,101	18,945	18,762	18,732	18,688	18,476
給水人口(人)	19,005	18,850	18,668	18,638	18,594	18,384
給水人口率(%)	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%
1日平均使用水量(m ³ /日)	6,912	6,885	6,639	6,595	6,387	6,407
生活用(m ³ /日)	4,384	4,500	4,429	4,384	4,314	4,321
業務営業用(m ³ /日)	1,615	1,500	1,457	1,467	1,377	1,371
工場用(m ³ /日)	909	884	753	744	696	715
臨時用(m ³ /日)	4	1	0	0	0	0

資料：上下水道課

(2) 下水道

公共下水道*については、福崎浄化センターの一層の環境保全に努めるため全国で初めて膜を利用した高度処理方式(凝集剤併用型膜分離活性汚泥方式)を採用し、平成17年3月に供用を開始しました。平成28年3月に全ての地区で整備が完了し、令和元年6月には長目地区コミュニティプラント*を公共下水道*へ統合しています。

農業集落排水処理施設については、計画していた処理区すべての整備が完了し稼働しています。

表 1.32 福崎町公共下水道の概要

項目	計画諸元	備考
汚水計画		
計画目標年次	令和27年度	
汚水処理区域	約818ha	市街化区域(東部工業団地を除く)、 周辺集落農集区域統合後
処理人口	17,572人	
処理水量	10,500m ³ /日	処理能力・日 最大
雨水計画		
排水区域	約428ha	市街化区域の浸水に關与する既存集落

資料：福崎町公共下水道全体計画

表 1.33 公共下水道の接続状況

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総戸数	5,720	5,800	5,847	5,885	5,921	5,934
接続戸数	4,440	4,527	4,621	4,712	4,792	4,849
接続率(%)	77.6	78.1	79.0	80.1	80.9	81.7

資料：上下水道課

表 1.34 農業集落排水処理施設接続率

地区名	項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
板坂	総戸数	127	127	127	127	127	127	127	127
	接続戸数	116	116	119	119	119	119	119	119
	接続率(%)	91.3	91.3	93.7	93.7	93.7	93.7	93.7	93.7
鍛冶屋	総戸数	182	183	186	186	186	186	186	186
	接続戸数	174	175	178	178	178	178	178	178
	接続率(%)	95.6	95.6	95.7	95.7	95.7	95.7	95.7	95.7
余田	総戸数	233	234	234	235	236	239	240	240
	接続戸数	210	211	211	213	215	218	220	220
	接続率(%)	90.1	90.2	90.2	90.6	91.1	91.2	91.7	91.7
大貫	総戸数	333	336	337	338	340	343	344	345
	接続戸数	283	286	289	292	295	299	302	304
	接続率(%)	85.0	85.1	85.8	86.4	86.8	87.2	87.8	88.1
田口	総戸数	88	88	88	88	90	90	90	90
	接続戸数	87	87	87	87	89	89	89	89
	接続率(%)	98.9	98.9	98.9	98.9	98.9	98.9	98.9	98.9
八千種	総戸数	316	318	320	321	321	321	322	322
	接続戸数	243	246	249	252	252	253	257	258
	接続率(%)	76.9	77.4	77.8	78.5	78.5	78.8	79.8	80.1
合計	総戸数	1,279	1,286	1,292	1,295	1,300	1,306	1,309	1,310
	接続戸数	1,113	1,121	1,133	1,141	1,148	1,156	1,165	1,168
	接続率(%)	87.0	87.2	87.7	88.1	88.3	88.5	89.0	89.2

資料：上下水道課

凡 例	
公共下水道	
特定環境保全公共下水道	
農業集落排水	
合併処理浄化槽	
雨水幹線	
浄化センター	
中継ポンプ場	
広域幹線道路	
圏域幹線道路	
地域幹線道路	
市街化区域	
都市計画区域	
行政界	
河川・湖沼	

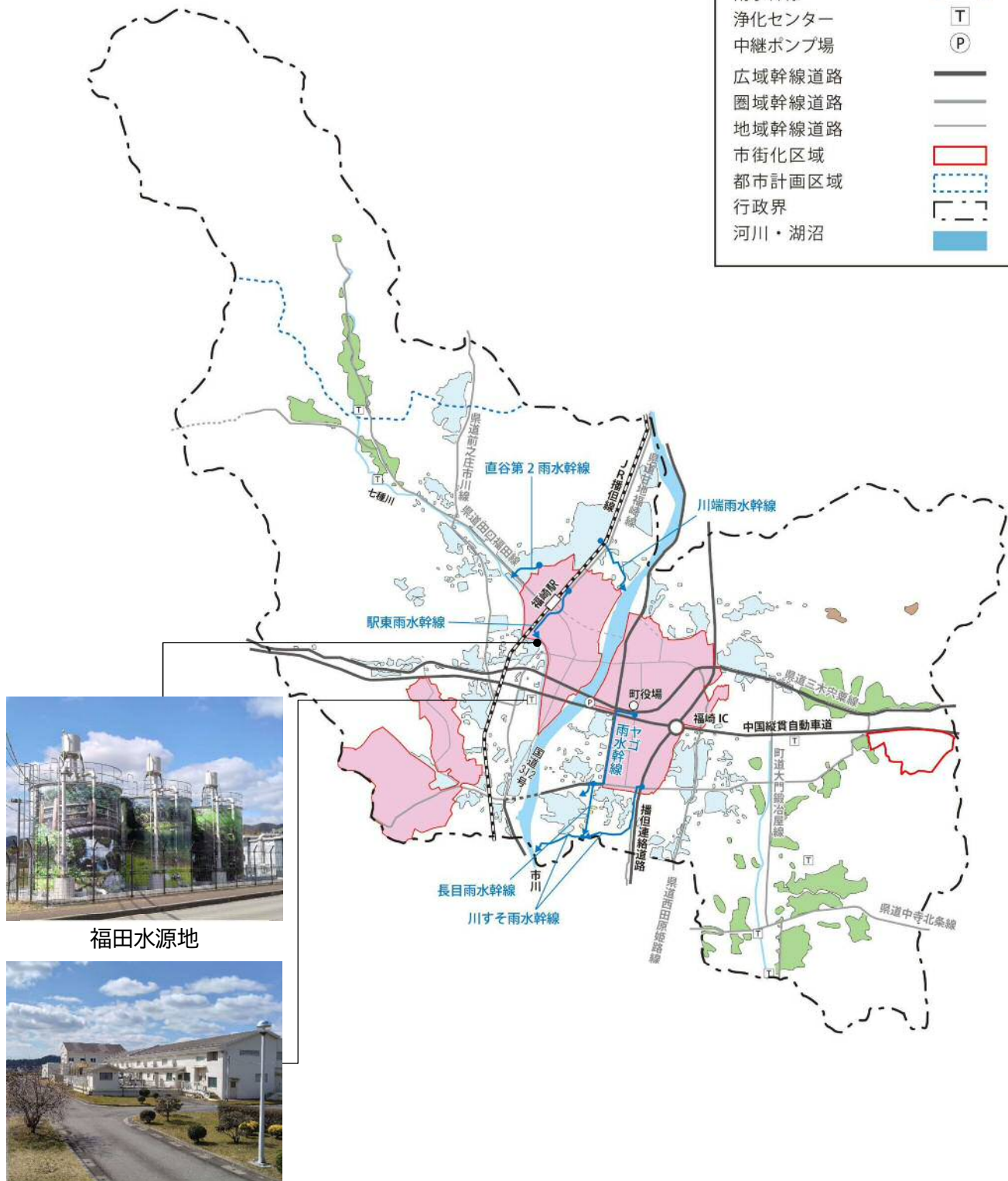
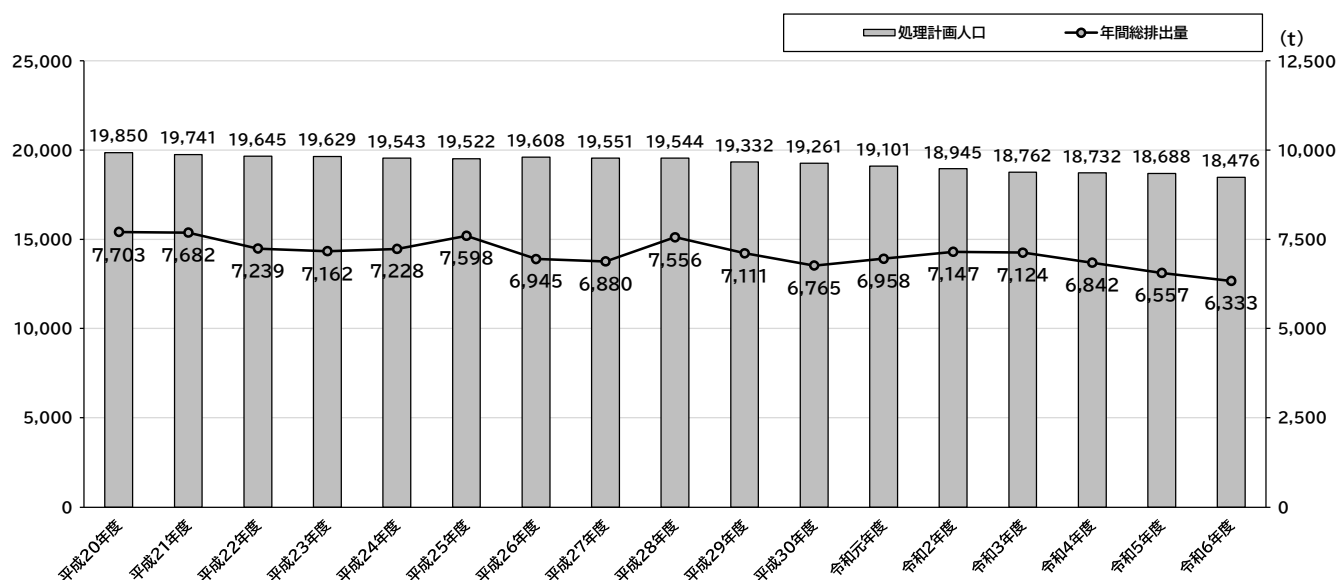


図 1.28 下水道の現況(令和6年度末)

2-9. その他処理施設

(1) ごみ処理

「福崎町一般廃棄物処理計画」に基づき、循環型社会の構築をめざして、ごみの減量化を進めています。令和6年度の一般廃棄物の年間総排出量は、6,333tで、平成20年以降のごみの排出量は減少傾向にあります。

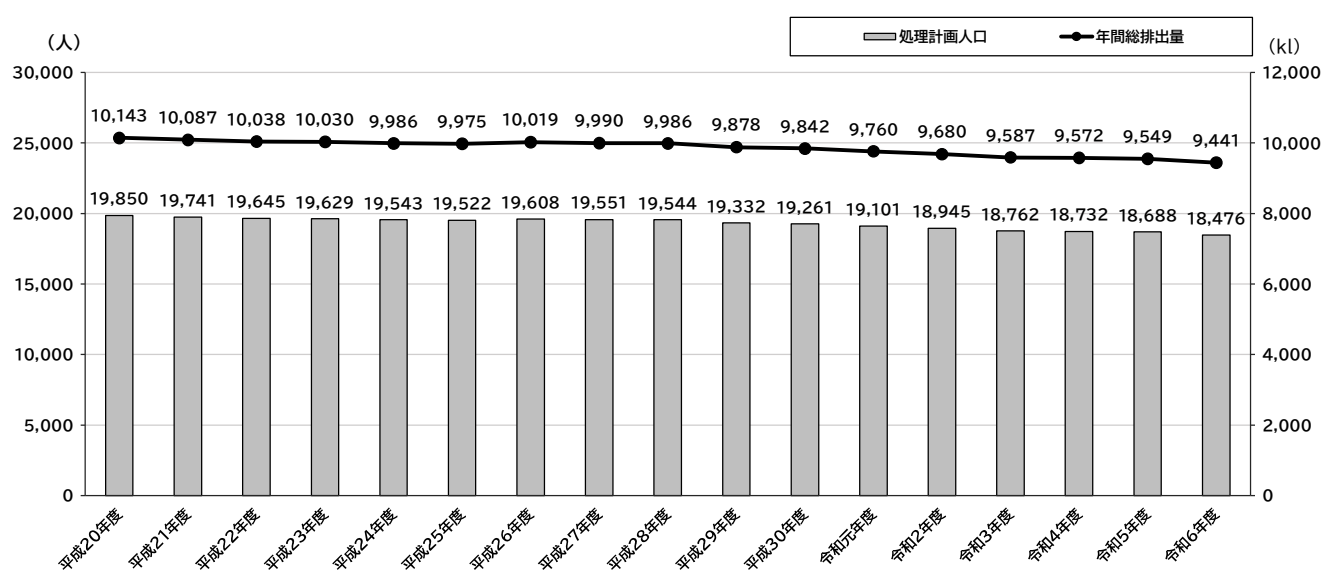


資料:住民生活課

図 1.29 一般廃棄物の収集・処理状況の推移

(2) し尿処理

し尿については、下水道の普及や人口の減少にともない、総排出量は毎年減少し続けています。



資料:住民生活課

図 1.30 し尿処理量の推移

2-10. 公共施設

役場庁舎をはじめとした官公署や教育施設、児童や老人のための福祉施設や、柳田國男・松岡家記念館やエルデホール等の文化施設、さるびあドームなど多数の公共施設を有しています。

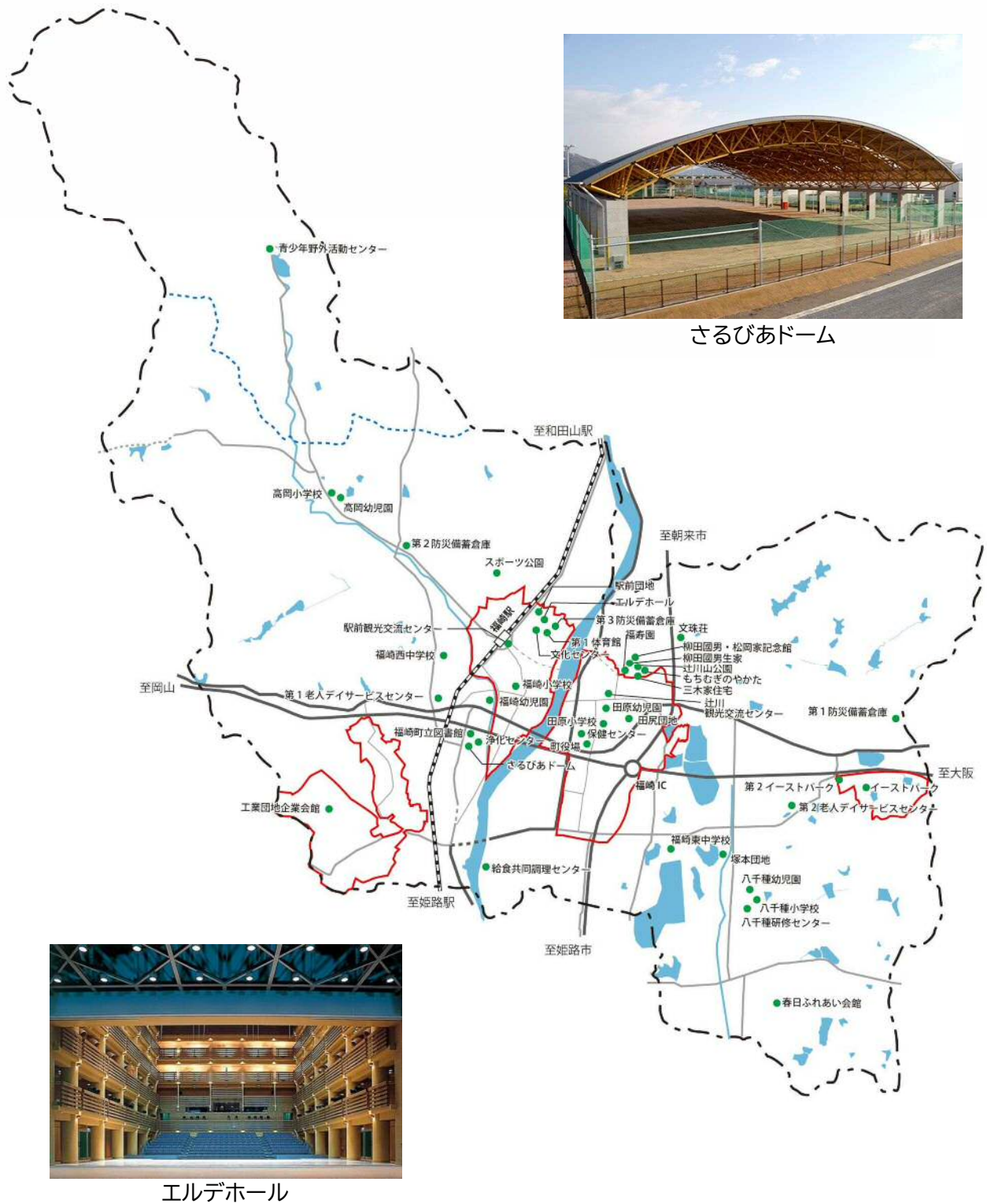


図 1.31 主な公共施設の位置

表 1.35 主な公共施設の現況

令和7年4月1日現在

	名称(通称)	所在地	設置年 (建築)	備考(主な沿革等)
1	福崎町役場庁舎	南田原3116-1	昭和51年	(平成27年耐震補強工事)
2	福崎コミュニティセンター(サルビア会館)	西田原1397-1	昭和53年	
3	福崎町第1老人デイサービスセンター	西治474-6	平成7年	
4	福崎町第2老人デイサービスセンター	大貫446	平成12年	
5	福崎町在宅介護支援センター (すみよしの郷)	大貫446	平成12年	(第2老人デイサービスセンター内)
6	福崎町ホームヘルプステーション	大貫446	平成12年	(第2老人デイサービスセンター内)
7	福崎町養護老人ホーム(福寿園)	西田原1037	昭和53年	
8	福崎町文珠荘	東田原1891	平成8年	令和4年1月リニューアルオープン
9	田原幼稚園	西田原1263-4	平成2年	平成24年増築
10	八千種幼稚園	八千種276-2	平成7年	平成26年増築
11	福崎幼稚園	福崎新448-3	昭和63年	平成21年増築
12	高岡幼稚園	高岡1956-33	平成27年	
13	子育て支援センター	福崎新448-3	平成21年	(福崎幼稚園内)
14	福崎町東部学童保育園	西田原1454	平成24年	
15	福崎町保健センター	西田原1397-1	昭和61年	
16	福崎町地域包括支援センター	西田原1397-1	昭和61年	(保健センター内)
17	駅前公衆便所	福田302-54	平成21年	
18	辻川界限公衆便所	西田原1036	平成9年	
19	田原文殊公衆便所	東田原1891-8	平成26年	
20	農林業体験学習館(春日ふれあい会館)	八千種3718-1	昭和63年	
21	春日ふれあい広場	八千種3793	昭和63年	
22	福崎町もちむぎのやかた	西田原1022-4	平成7年	
23	福崎町生活科学センター	福田176-1	昭和46年	
24	福崎町工業団地企業会館	西治860-9	昭和63年	(平成29年外壁改修工事)
25	福崎町市川河川公園	福崎新3-2地先	平成11年	
26	イーストパーク	大貫972-1	平成11年	
27	辻川山公園	西田原1031	平成15年	平成30年区域拡大
28	駅前児童公園	福田167-1	平成7年	
29	宮の丘公園	西治1101-1	平成7年	
30	第2イーストパーク	大貫1755-7	令和4年	
31	田尻団地	西田原1792-1	平成13年他	平成13年:第1期工事 平成15年:第2期工事
32	塚本団地	八千種70	平成17年	
33	駅前団地	福田111	令和元年	平成30年~令和元年 建替工事
34	馬田団地	馬田99-1	昭和51年	
35	福崎町第1防災備蓄倉庫	大貫1356	平成11年	
36	福崎町第2防災備蓄倉庫	高岡1564-26	平成22年	(平成22年改造工事)
37	福崎町第3防災備蓄倉庫	福田153	平成29年	
38	田原小学校	西田原1274	昭和55年他	昭和55年校舎・平成10年プール・ 平成28年体育館(平成22年耐震工事)
39	八千種小学校	八千種300	平成3年他	平成3年校舎・平成12年プール・ 平成19年体育館

	名称(通称)	所在地	設置年 (建築)	備考(主な沿革等)
40	福崎小学校	馬田169-4	昭和54年他	昭和54年北校舎・昭和56年南校舎・ 昭和63年体育館 (平成22年耐震工事)
41	高岡小学校	高岡1825-1	昭和52年他	昭和52年北校舎・平成3年体育館・ 平成5年南校舎
42	福崎東中学校	南田原1200-1	昭和55年他	昭和55年校舎・ 昭和56年体育館(平成22年耐震工事)
43	福崎西中学校	福田597	昭和60年他	昭和60年校舎・昭和63年体育館
44	福崎町立図書館	西治360-1	平成17年	
45	福崎町文化センター	福田176-1	昭和46年	
46	福崎町エルデホール	福田116-2	平成5年	
47	八千種研修センター(もちの木会館)	八千種330	昭和59年	
48	福崎町青少年野外活動センター	田口700-1	昭和45年	平成11年管理棟・平成13年山小屋リフレッシュ
49	神崎郡歴史民俗資料館	西田原1038-12	昭和57年	(昭和57年移築工事)
50	柳田國男・松岡家記念館	西田原1038-12	昭和50年	(平成23年町営化)
51	柳田國男生家	西田原1038-12	昭和48年	(昭和48年移築工事・平成23年町営化)
52	大庄屋三木家住宅	西田原1106	平成16年	(平成16年公有化)
53	福崎町辻川界隈歴史・文化館(旧辻川郵便局)	西田原1022-1	平成30年	(平成27年公有化) 平成30年移築工事
54	福崎町給食共同調理センター	南田原420-7	平成15年	
55	福崎町民第1グラウンド	西田原845	昭和50年	平成30年グラウンド改修工事
56	福崎町民第2グラウンド	西田原1460	昭和57年	
57	福崎町民第3グラウンド(さるびあドーム)	西治284-3	平成27年	
58	福崎町スポーツ公園	福田1094-48	平成2年	平成8年リフレッシュ工事
59	福崎町第1体育館	福田176-1	昭和51年	(平成28年耐震補強工事)
60	福崎町第2体育館	福田1094-48	昭和45年	(旧福崎西中体育館)
61	工業用水水源地	福崎新328-2	昭和50年	
62	八反田水源地	南田原2513-2	昭和43年	(休止中)
63	福田水源地	福田464-1	昭和40年	(平成28年高度浄水施設整備工事)
64	井ノ口水源地	西田原180	昭和41年	
65	山崎配水池	山崎1005-96	—	(平成27年増設工事)
66	福崎浄化センター	西治301-1	平成17年他	
67	福崎浄化センター修景施設(さるびあ公園)	西治301-1	平成17年他	令和4年～6年 複合遊具等を整備
68	田原汚水中継ポンプ場	南田原2682-1	平成24年	
69	板坂農業集落排水処理施設	高岡1810	平成6年	(平成26年機能強化工事)
70	鍛冶屋農業集落排水処理施設	八千種3912-2	平成6年	(平成26年機能強化工事)
71	余田農業集落排水処理施設	八千種530	平成8年	(平成26年機能強化工事)
72	八千種農業集落排水処理施設	八千種4567	平成13年	(平成26年機能強化工事)
73	大貴農業集落排水処理施設	大貴2059-1	平成11年	(平成26年機能強化工事)
74	田口農業集落排水処理施設	田口319-2	平成11年	(平成26年機能強化工事)
75	福崎町駅前観光交流センター	福田302-11	平成30年	
76	福崎町辻川観光交流センター	西田原1470-1	平成30年	

資料:庁内資料

2-11. 文化・観光資源

本町は、文化勲章を受章した民俗学の父・柳田國男と船舶工学の権威である吉識雅夫をはじめとして、医師・地方政治家の松岡鼎、眼科医・国文学者の井上通泰、軍人・言語学者の松岡静雄、日本画家の松岡映丘など、多くの文化人を輩出しています。

町内には兵庫県指定文化財である柳田國男生家や大庄屋三木家住宅、国の指定重要文化財となっている木造薬師如来坐像を安置した神積寺などの歴史的な観光資源が数多くあります。

また、平成26年以降、柳田國男の著書にあやかって設置した河童像（河童のガタロウとガジロウ）が脚光を浴びるなど、観光入込客数は年々増加傾向にあり、令和5年では年間70万人を超えています。

さらには、関西百名山・ふるさと兵庫50山のひとつである七種山など、自然の魅力と歴史的な価値を兼ね備えた山々が多数あります。

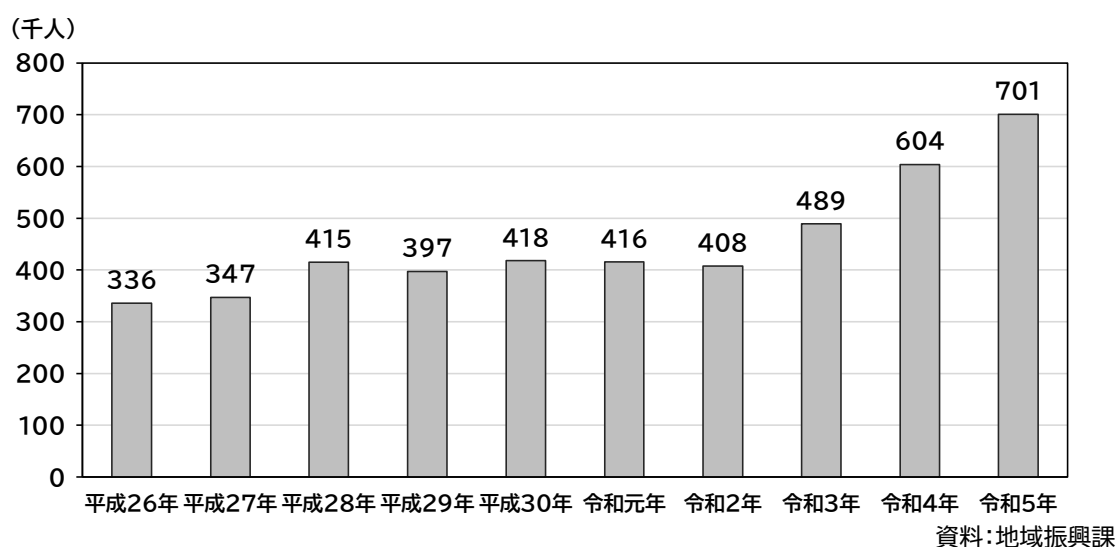


図 1.32 観光客入込数の推移

表 1.36 町内にある主な山一覧

No	名 称	よみがな	標高(m)	地区(行政区)	整備状況	備 考
1	七種山	なぐさやま	683.0	高岡(田口)	済	七種三山
2	薬師峯	やくしみね	616.2	高岡(田口)	済	七種三山
3	七種槍	なぐさやり	577.3	高岡(田口)	済	七種三山
4	日光寺山	にっこうじやま	408.6	田原(亀坪)	済	
5	大倉山	おおくらやま	385.0	福崎(西谷)	－	
6	神前山	かむさきやま	333.5	福崎(山崎)	済	
7	カラタチ山	からたちやま	322.0	田原(加治谷)	済	
8	大師山	だいしやま	277.7	福崎(福田)	－	
9	高倉山	たかくらやま	257.4	八千種(余田)	済	余田アルプス
10	住吉山	すみよしやま	200.4	八千種(余田)	済	余田アルプス
11	春日山	かすがやま	197.9	八千種(鍛冶屋)	済	
12	大門宮山	だいもんみややま	146.8	田原(大門)	－	ふくさき三獅子山
13	妙徳山	みょうとくさん	140.2	田原(加治谷)	－	ふくさき三獅子山
14	辻川山	つじかわやま	126.8	田原(辻川)	済	ふくさき三獅子山

資料:地域振興課

表 1.37 指定文化財の状況

令和8年3月31日現在

No.	名 称	所在地	指定	種 別
1	木造薬師如来坐像	東田原1891	国	重要有形文化財(彫刻)
2	石造鳥居	東田原1935-1	県	重要有形文化財(建造物)
3	石橋	東田原1935-1	県	重要有形文化財(建造物)
4	石造五重塔	西田原752	県	重要有形文化財(建造物)
5	三木家住宅	西田原1106	県	重要有形文化財(建造物)
6	岩尾神社本殿	東田原1935-1	県	重要有形文化財(建造物)
7	旧神崎郡役所(福崎町立神崎郡歴史民俗資料館)	西田原1038-12	県	重要有形文化財(建造物)
8	神積寺本堂	東田原1891	県	有形文化財(建造物)
9	阿弥陀種子板碑	東田原1891	県	重要有形文化財(考古資料)
10	柳田國男生家	西田原1038-12	県	重要有形民俗文化財
11	かくしほちょじ	鍛冶屋区	県	重要無形民俗文化財
12	七種山	田口703-2外	県	名勝
13	應聖寺庭園	高岡1912	県	名勝
14	妙徳山古墳	東田原1891-1	県	史跡
15	阿弥陀堂	解体保存中	町	有形文化財(建造物)
16	悟真院唐門	東田原1905	町	有形文化財(建造物)
17	木造阿弥陀如来坐像	福田786	町	有形文化財(彫刻)
18	石造地藏菩薩像	田口236	町	有形文化財(彫刻)
19	石造地藏菩薩立像	東田原1	町	有形文化財(彫刻)
20	壺棺(A)	西田原1038-12	町	有形文化財(考古資料)
21	壺棺(B)[合蓋土器]	西田原1038-12	町	有形文化財(考古資料)
22	妙法寺 梵鐘	山崎843	町	有形文化財(工芸)
23	固寧倉	福田861	町	有形民俗文化財
24	法成就講	高橋区	町	無形民俗文化財
25	追儼	東田原1891	町	無形民俗文化財
26	浄舞(熊野神社)	田尻区	町	無形民俗文化財
27	浄舞(余田大歳神社)	余田区	町	無形民俗文化財
28	獅子舞	桜区	町	無形民俗文化財
29	大塚古墳	山崎565	町	史跡
30	相山古墳	大貫2909	町	史跡
31	クロガネモチ	八千種1162	町	天然記念物
32	ヤマモモ	西田原1038-7	町	天然記念物

No.	名 称	所在地	指定	種 別
33	イチョウ	福崎新64	町	天然記念物
34	コヤスノキ	田口(七種山中)	町	天然記念物
35	石造宝塔(残欠)	東田原1905	町	有形文化財(建造物)
36	つるべ	西田原1038-12	町	有形文化財(歴史資料)
37	石造五如来坐像	南田原578	町	有形文化財(彫刻)
38	おかげ燈籠	大貫2617	町	有形文化財(建造物)
39	石燈籠	東田原1891	町	有形文化財(建造物)
40	法界萬霊塔	山崎45-1	町	有形文化財(建造物)
41	庚申塔	高岡1963-5	町	有形民俗文化財
42	東広畑古墳	西田原626	町	史跡
43	東新田古墳	西田原556-1、556-2	町	史跡
44	木造文殊菩薩坐像	東田原1891	町	有形文化財(彫刻)
45	神谷古墳	高岡1937	町	史跡
46	木造阿弥陀如来坐像	東田原1891	町	有形文化財(彫刻)
47	銅造誕生釈迦仏立像	高岡1912	町	有形文化財(彫刻)
48	朝谷1号墳	山崎1005-40	町	史跡
49	絹本着色仏涅槃図	高岡1912	町	有形文化財(絵画)
50	絹本着色愛染明王図	高岡1912	町	有形文化財(絵画)
51	紙本着色金剛界曼荼羅	高岡1912	町	有形文化財(絵画)
52	紙本着色天台大師入定図	高岡1912	町	有形文化財(絵画)
53	東広畑古墳出土 円頭大刀柄頭	南田原3116-1	町	有形文化財(考古資料)

資料:教育委員会



三木家住宅



旧神崎郡役所（神崎郡歴史民俗資料館）



神積寺本堂

2-12. 防災・減災*

本町は、概ね瀬戸内海型の比較的穏やかな気候で、内陸型気候の影響を若干受ける地域となっています。もともと寒暖差が比較的大きな地域ですが、近年はゲリラ豪雨や局地的集中豪雨による土砂災害の発生が見られます。

昭和31年の福崎町合併以降の主な自然災害は次のようになっています。

表 1.38 合併以降の主な自然災害

年月	概 要
昭和38年6月	集中豪雨により北浦谷池決壊、農地・施設等に甚大な被害発生
昭和40年9月	台風 23 号と集中豪雨で七種川堤防決壊等の甚大な被害発生
昭和47年9月	集中豪雨による被害発生
昭和51年9月	台風 17 号と集中豪雨による被害発生
平成2年9月	台風 19 号と集中豪雨による被害発生
平成7年1月	阪神淡路大震災による被害発生
平成16年8～10月	台風 16、18、21、23 号による被害発生
平成23年9月	台風 12 号による甚大な被害発生

資料：町勢要覧

◆ 2015年6月作序

